

第2部（調査結果の説明）

1. 各質問ごとの説明

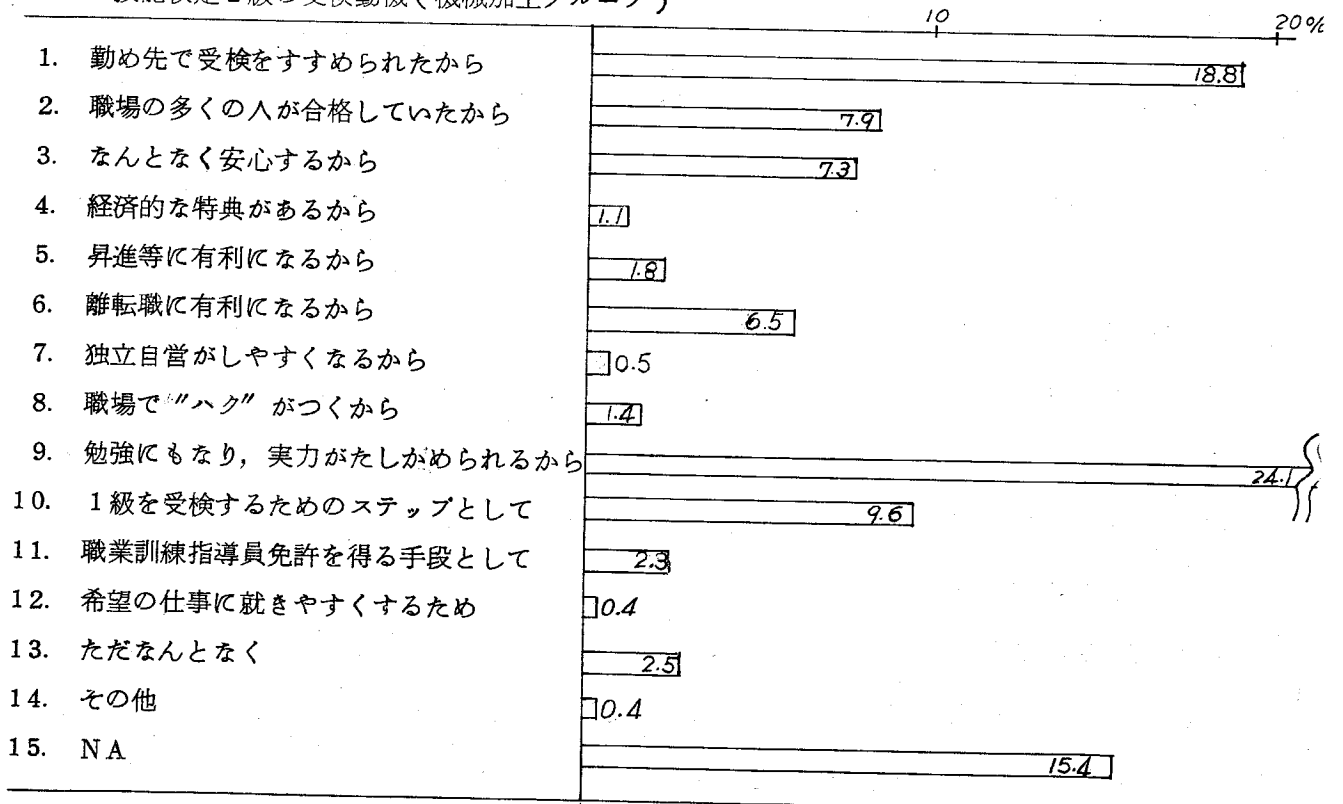
Q1 あなたが技能検定2級を受検したのは、どのような理由によるものですか。

本調査の対象者は技能検定1級の合格者であるが、まず2級受検当時の受検動機を調べ、1級の受検動機との比較をこころみた。

しかし、本調査で対象となった時計修理合格者のうち、回答者の88.5%（123人）がQ1には回答をしていない。また機械加工合格者についても45%（154人）が回答をしていない。これは、回答の状況から判断して職業訓練法第63条第2号の規定により、直接、技能検定の1級を受検している人々と推察される。したがって、Q1は、時計修理合格者のすべてと機械加工合格者の154人を除き、機械加工合格者のうちの技能検定2級受検経験者のみを対象にした。

図6はそのまとめである。

図6 技能検定2級の受検動機（機械加工グループ）

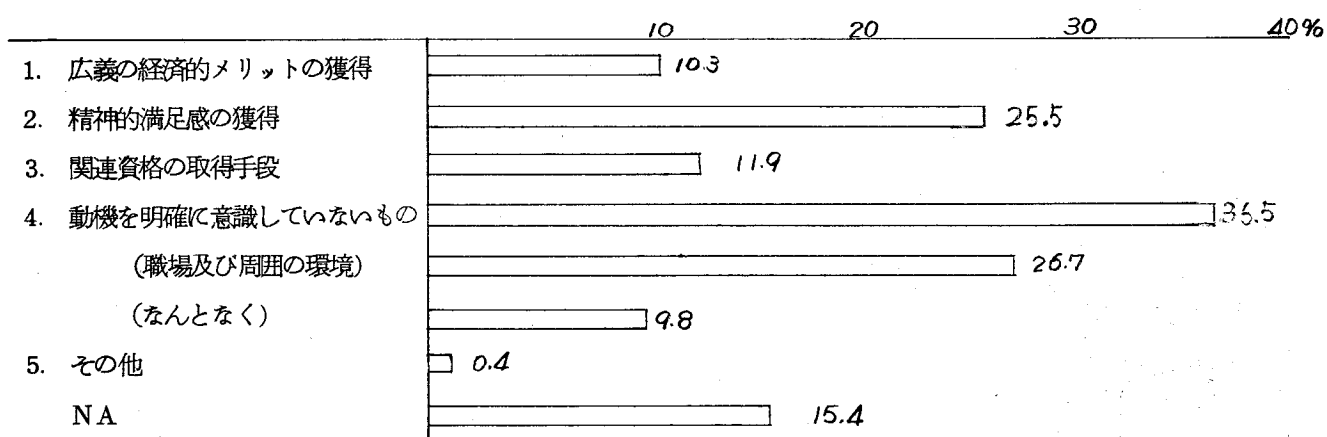


Q1は14の選択肢で構成されているが、大別すれば次の五つのカテゴリーにまとめることができる。

2級の受検の動機	—	広義の経済的メリットの獲得……………	選択技4～7・12
	—	精神的満足感の獲得……………	” 8～9
	—	関連資格の取得手段……………	” 10～11
	—	動機を明確に意識していないもの…	” 1～3・13
	—	┌ 職場及び周囲の環境……………	” (1～2)
	—	└ なんとなく……………	” (3・13)
	—	その他……………	” 14

このカテゴリーによって図6をまとめたのが図7である。

図7 技能検定2級の受検動機(図6)のまとめ



◇ 結果の説明

図7で明らかな点は、2級の受検動機について、各選択肢に回答された割合の約48%は受検動機が明確なものであるが、動機が明確でないことを意味する選択肢に対する回答も約37%ある。

受検動機の明確なもののうち、もっとも高く回答された選択肢は、“勉強にもなり、実力をたしかめられるから”(24.1%)とするものである。これに、回答は低い“職場でハクがつくから”とする選択肢を加えると、精神的な満足感の獲得

を動機とするカテゴリーには25.5%が示されている。

次に高く回答されたカテゴリーは、自分の職業に関連する職業資格の取得を意識して受検したとするもので、すでに“1級の技能検定の受検のステップとして”

(9.6%)意識しているもの、あるいは、これも1級の技能検定の受検に際し、学科免除の特典にも結びつく“職業訓練指導員免許を得る手段として”(2.3%)考えているものを加えるとこのカテゴリーに示された割合は11.9%である。このうち、“職業訓練指導員免許を得る手段として”と回答した者が、真に職業訓練指導員免許の取得を目的とした者か、あるいは、1級の技能検定の学科免除の特典を得ることを目的とした者であるかは明確ではないが、本調査の自由記述の内容に、後者に対する批判的な意見がみられることから推測すれば、1級の受検に際して学科免除の特典を得ることを目的として職業訓練指導員免許を取得しようとしている者も多いと考えられる。

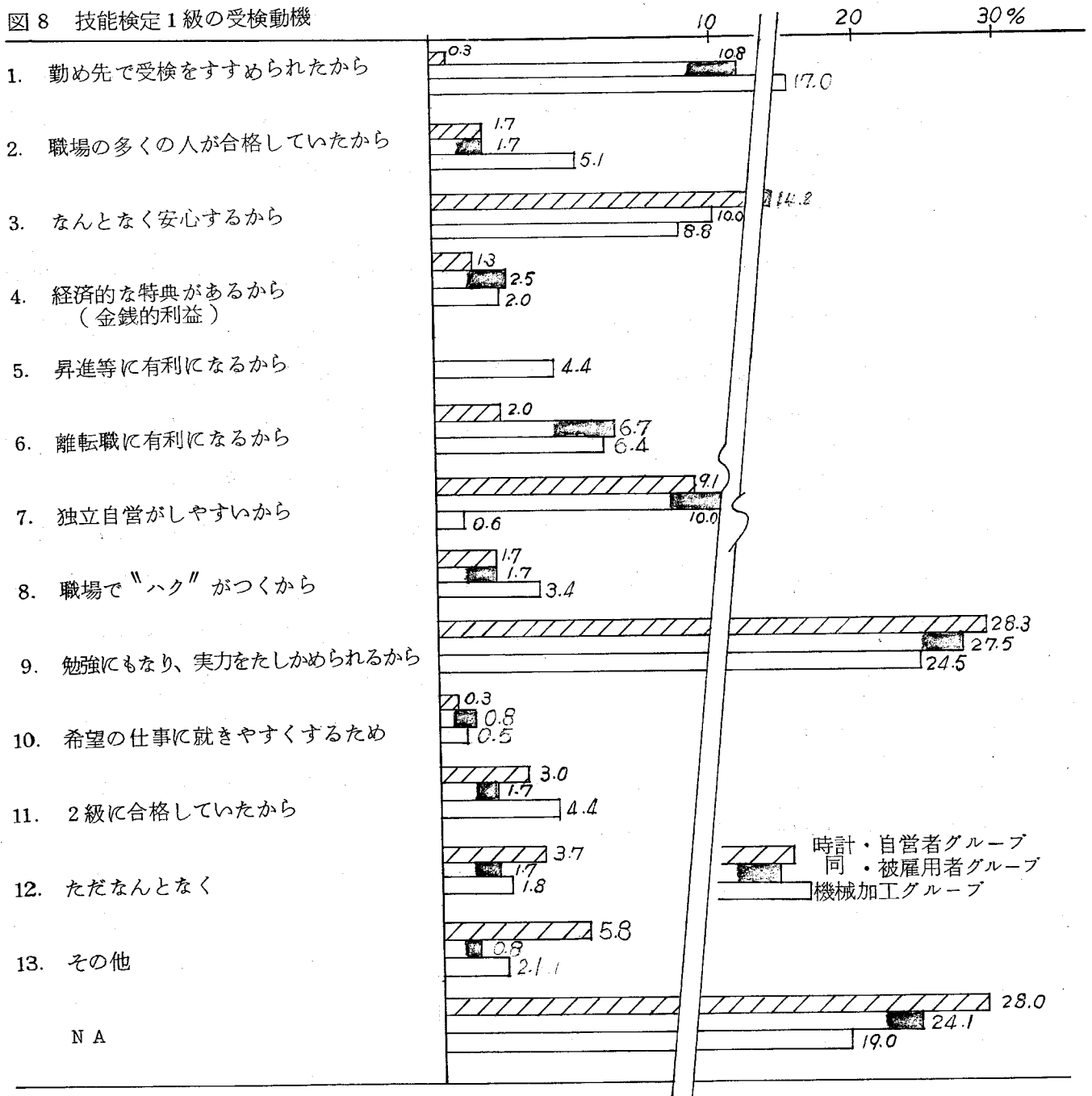
一方、昇進、労働市場の横断的移動等の、広義の経済的メリットの獲得を受検動機としたカテゴリーに示された回答は10.3%と少ない。このカテゴリーを構成する選択肢のうち、比較的高く回答された選択肢は、“離転職に有利になるから”(6.5%)とするものであるが、Q1を分析するかぎりにおいて、技能検定の受検は、“地位上昇”(1.8%)、そしてそれに伴う“賃金的な特典”(1.1%)に結びつけて動機づけられている者は少ないといえる。しかし、ここでもっとも特徴的なことは、“勤め先きで受検をすすめられたから”(18.8%)、“職場の多くの人が合格していたから”(7.9%)という選択肢など、他人の意見やおもわくなど、自分自身の意志よりも周囲の環境、雰囲気の影響されて受検したとする者の割合が高い(26.7%)こと、あるいは“ただなんとなく”(2.5%)、“なんとなく安心するから”(7.3%)とする選択肢等、動機を明確に意識しないままに受検したとする者が36.5%いることである。

Q2 あなたが技能検定1級を受検したのは、どのような理由によるものですか。

Q1が技能検定2級の受検動機をたずねたのに対して、ここでは1級の受検動機を調べるものである。

図8はそのまとめである。

図8 技能検定1級の受検動機

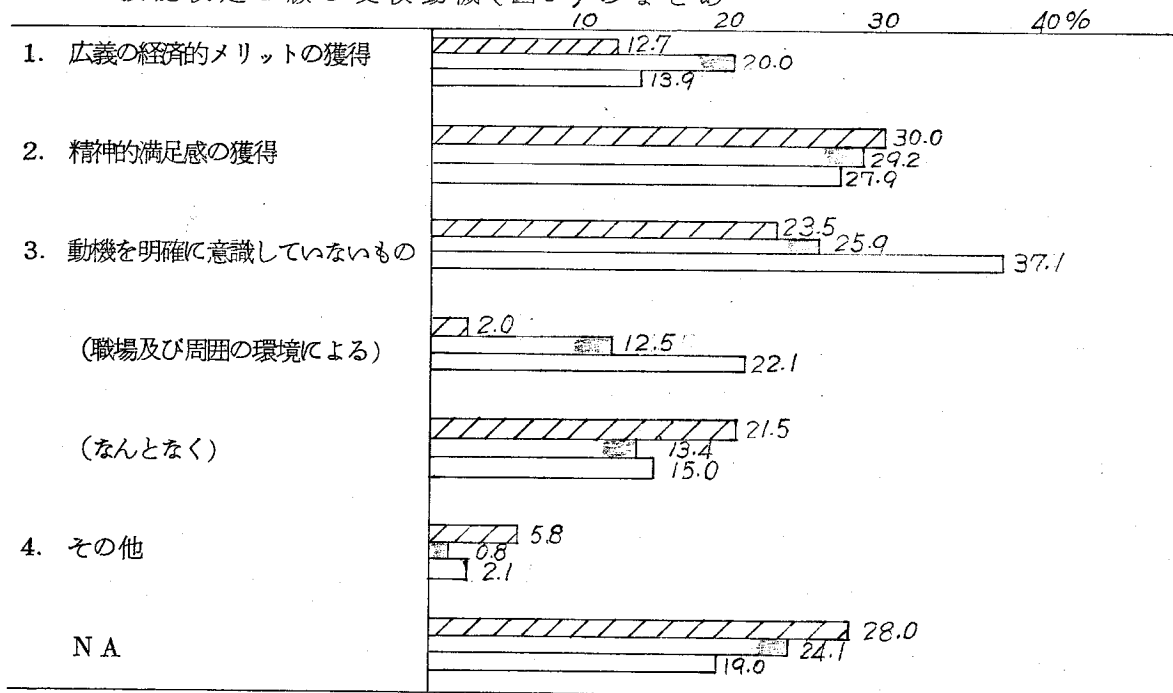


選択肢はQ1と異なる部分もあるが、13の選択肢で構成されており、大別すれば次の四つのカテゴリーにまとめることができる。

1級の受検の動機	— 広義の経済的メリットの獲得 ……………	選択肢4～7・10
	— 精神的満足感の獲得 ……………	// 8～9
	— 動機を明確に意識していないもの ……………	// 1～3・11～12
	└─ 職場及び周囲の環境による ……………	// (1～2)
	└─ なんとなく ……………	// (3・11～12)
	— その他 ……………	// 13
	— NA	

このカテゴリーによって図8をまとめたのが図9である。

図9 技能検定1級の受検動機(図8)のまとめ



◇ 全般の特徴

図9で各グループに共通している点は、技能検定1級を受検した動機は、“勉強にもなり、実力をたしかめられるから”、“職場でハクがつくから”等の、いわゆる精神的な満足感の獲得を動機とするカテゴリーに約30%の回答があり、地位上昇、労働市場の横断的移動を意識して動機づけられたカテゴリーである広義の経済的メリットに対する回答は、前者に比較してかなり低いことである。また、“勤め先きで受検をすすめられたから”、“職場の多くの人が合格していたから”等の、職場および周囲の環境に影響されて受検したという、動機を明確に意識していないままに受検したという回答が高い。

◇ 結果の説明

まず、広義の経済的メリットの獲得を動機とするカテゴリーに対しては、時計修理・自営者グループに比べて時計修理・被雇用者グループでは約5割増しの20%の回答のあることが注目される。このカテゴリーを構成する選択肢のうち、時計修理・被雇用者グループに特徴的なことは、“離転職に有利になるから”(6.7%)、あるいは“独立自営がしやすくなるから”(10.0%)という視点から動機づけられていることに対する回答が高いことである。しかし、時計修理・自営者の場合には、技能検定の受検を離転職に結びつけて意識すること(2.0%)よりも独立自営に結びつけて意識することに対する回答が高く(9.1%)、一方、機械加工グループの場合には、離転職に結びつけて受検したとする選択肢に対する回答(6.4%)の高いことがわかる。

次に第2の категорияである精神的満足感の獲得についてみてみよう。図9によれば、このcategoryに対する回答は、各グループとも約28%から30%の間にあるが、このcategoryを構成する選択肢のうち、“勉強にもなり、実力が確められるから”という個人の職業的成長への希求に動機づけられたという選択肢に対する回答は、機械加工グループ(24.5%)よりも時計修理・被雇用者グループ(27.5%)のほうが高くなっている。しかし、いま一つの選択肢である“職場でハクがつくから”に動機づけられて受検したとする割合は、各グループとも全体に占める回答は低いが、この場合は逆に、時計修理・被雇用者グループ(1.7%)よりも機械加工グループ(3.4%)に高く現われている。

しかし、Q2でもっとも特徴的なことは、Q1と同様に受検の動機が明確でないまま受検したとする回答が、1級受検時においてすら高いことである。図9によれば、時計修理・自営者グループでは23.5%、同・被雇用者グループでは25.9%、そして機械加工グループでは実に37.1%と極めて高く示されていることが目につく。

これをQ1と同様に職場及び周囲の環境によって影響されて受検したものと、なんとなく受検したというものとに分けてみてみよう。まず、“勤め先きで受験をすすめられたから”という選択肢に示された回答は、当然のことながら被雇用者に高く、時計修理・被雇用者グループでは10.8%、機械加工グループでは17.0%となっており、ことに、主として大規模企業の被雇用者が多い機械加工グループの合格者に消極性がうかがわれる。また、“職場の多くの人が合格していたから”という選択肢に対しても、機械加工グループは高く(5.1%)現われている。しかし、“なんとなく安心するから”に対して示された割合は各グループとも低いものではない。(時計修理・自営グループ14.8%、同・被雇用者グループ10.0%、機械加工グループ8.8%)、

◇ Q1とQ2の比較について

—機械加工グループの場合—

機械加工グループの場合、技能検定の受検動機は、2級受検時、1級受検時とも

個人の職業的成長への希求に動機づけられた"勉強にもなり、実力がたしかめられるから"とするものと、"勤め先きで受検をすすめられたから"とするものの二つの選択肢に高く回答されていることがわかったが、しかし、個々の選択肢に対する回答には少しずつ変化のあることが認められる。

Q1とQ2の選択肢の構成には一部異なるところがあるが、これを比較して受検動機の変化の内容をみた。

表13 受検動機の比較（機械加工グループ） MA(×3),%

質 問 項 目	2 級受検時	1 級受検時
1. 広義の経済的メリットの獲得	10.3	13.9
2. 精神的満足感の獲得	25.5	27.9
3. 関連資格の取得手段*	11.9	—
4. 動機を明確に意識していないもの (職場および周囲の環境による)	36.5 (26.7)	37.1 (22.1)
(なんとなく)*	(9.8)	(15.0)
5. その他	0.4	2.1
NA	15.4	19.0
計	100.0	100.0

*印は、2級受検時と1級受検時の選択肢の構成が一部異なるもの

図10 技能検定受検の理由(1級と2級の比較) - 機械加工グループについて -

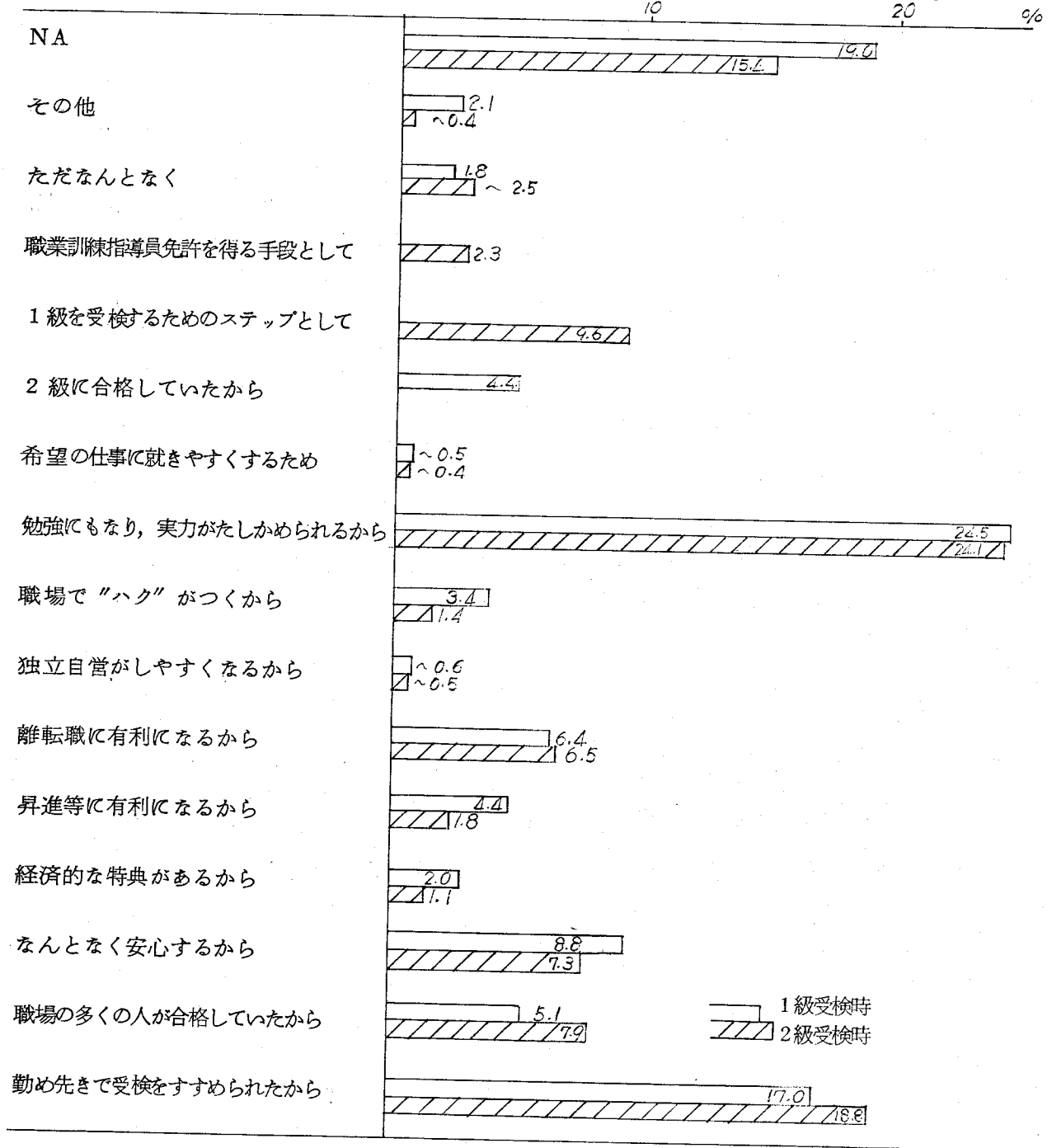


図10は、機械加工グループについてQ1とQ2の個々の選択肢の回答を比較したものである。

まず、広義の経済的メリットの獲得を構成する選択肢のうち、“昇進等に有利に

なるから”， “ 経済的な特典があるから ” の二選択肢に対して1級受検時の増加率が高く，また精神的な満足感の獲得を構成する選択肢のうち， “ 職場でハクがつくから ” に対しても1級受検時の増加率の高いことが顕著である。

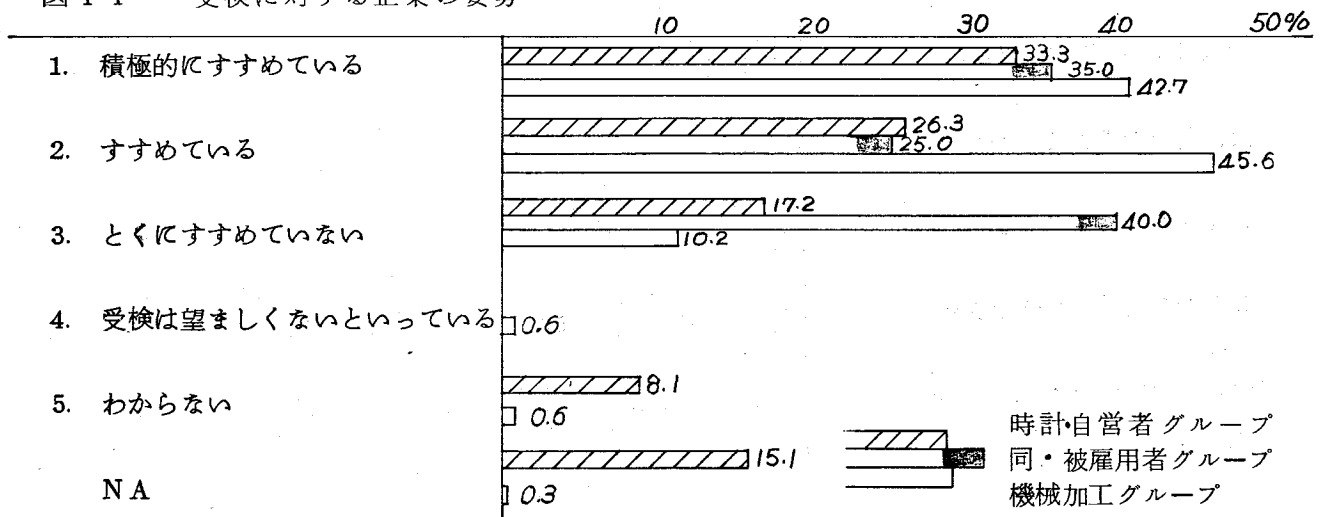
一方，表13のうち，第4の категорияである動機を明確に意識しないままに受検したとするものに対して示された回答は全体としては，2級受検時も1級受検時もかわりないが，しかし，この category を構成する選択肢のうち “ 勤め先きで受検をすすめられたから ” ， “ 職場の多くの人合格していたから ” という選択肢に示された回答は2級受検時に比べて減少している。

Q3 あなたの会社では、従業員に対して技能検定を受検することをすすめていますか。

この問は，合格者の所属する企業の技能検定に関する姿勢を，合格者はどのように受けとめているかについて調べるものである。

図11はそのまとめである。

図11 受検に対する企業の姿勢



◇ 全般的特徴

選択肢のうち，“積極的にすすめている”と“すすめている”を肯定的回答とし，“とくにすすめていない”と“受検は望ましくないといっている”を否定的回答とすれば，肯定的回答は，主として大規模企業の被雇用者が多い機械加工グループに高く表われている。

◇ 結果の説明

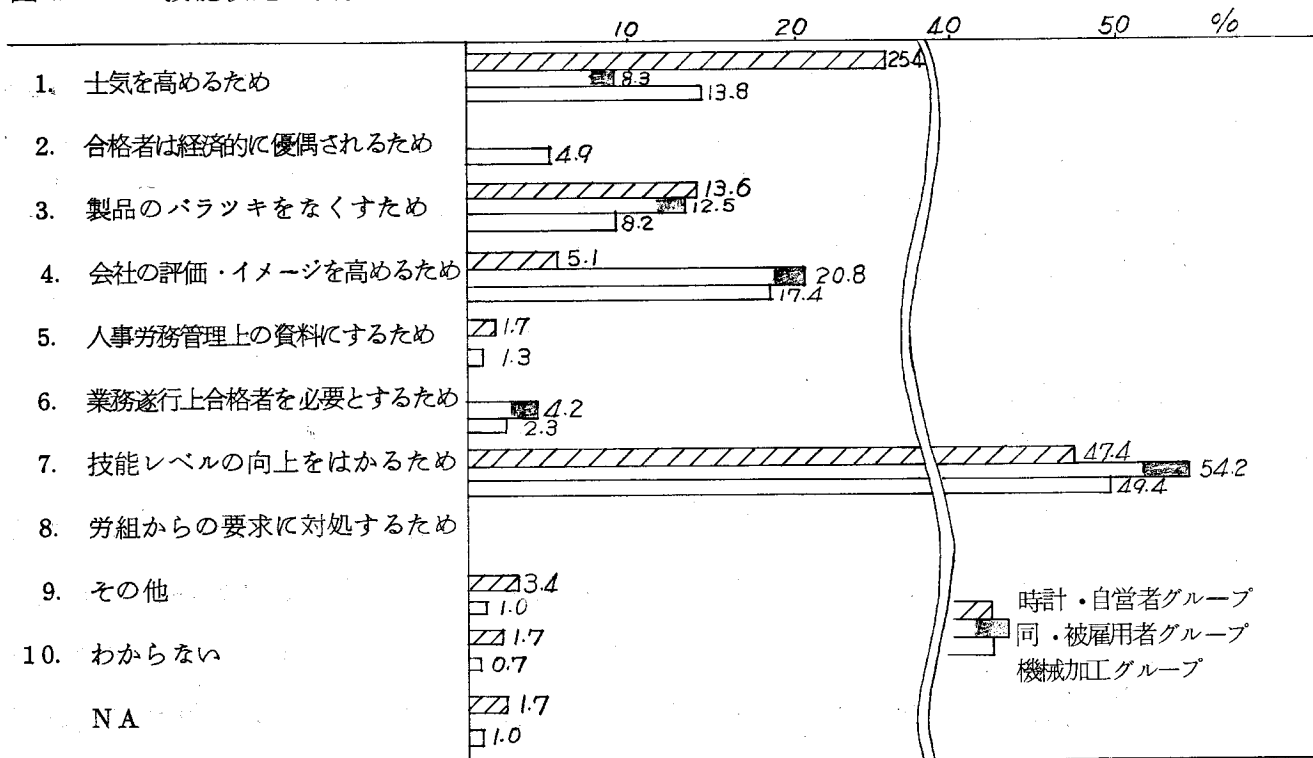
時計修理（自営者・被雇用者とも）グループでは肯定的回答は約60%であるのに対して機械加工グループでは約88%と技能検定に対するとり組み方を積極的に受けとめている。このことは否定的回答に示された割合からもしることができる。つまり，主として小売店被雇用者である時計修理・被雇用者グループでは否定的な回答が40%あるが，機械加工グループでは約10%が否定的に回答しているにすぎないのである。

Q4 あなたの会社が、従業員に対して技能検定を受検するようにすすめているもっとも強い理由はなんだと思いますか。

この問は前Q3で肯定的に回答した者について，自社の技能検定受検に対する積極性をどのように受けとめているかについて調べるものである。

図12はそのまとめである。

図 1 2 技能検定の受検をすすめる理由として考えられているもの



このうち、時計修理・被雇用者グループと機械加工グループは、自社の技能検定に対する積極性を推測する立場で回答しているのに対して、時計修理・自営者グループは自営者である立場から実際の理由を回答している。

◇ 全般的特徴

図 1 2 で各グループに共通している点は、技能検定の受検をすすめる理由を“技能レベルの向上をはかるため”とする選択肢に対して各グループとも約 50% の回答があることである。そしてさらに職種別では、時計修理（自営者・被雇用者とも）グループにおいては、“製品のバラツキをなくすため”とする選択肢に、また、従事上の地位別では被雇用者（時計修理・被雇用者、機械加工とも）グループにおいては“会社の評価・イメージを高めるため”とする選択肢に特徴がみられる。

◇ 結果の説明

“製品のバラツキをなくすため”と“技能レベルの向上をはかるため”の二つの選択肢は、いわば技術管理的な理由により受検をすすめるとするものであるが、技能検定の受検を企業がすすめることを技術管理的と受けとめている者は、時計修理・被雇用者グループが66.7%、同・自営者グループの61.0%であり、この点に関しては大きな差は認められない。しかし、この両グループに特徴的なことは、個々の選択肢をみると時計修理・自営者グループに“士気を高めるため”に受検をすすめていると回答するものが多い(25.4%)のに対して、被雇用者である時計修理・被雇用者グループでは極めて低く(8.3%)、合格者の立場によって技能検定に対する受けとめかたが異なっていることがわかる。このことは、選択肢の“会社の評価・イメージを高めるため”についても同様で、時計修理・自営者グループでは約5%しか示されていないのに対して、同・被雇用者グループでは約21%と4倍強となっている。つまり、この両グループは、技能検定を技術管理的と受けとめている点においては共通しているが、他の理解のしかたとして、自営者は“士気を高めるため”に活用しようとし、また被雇用者は“会社の評価・イメージを高めるため”であると受けとめているのである。

一方、被雇用者でも機械加工グループの場合には、“技能レベルの向上をはかるため”とする選択肢に対する回答がもっとも高い(49.4%)ことは前二グループと同様であるが、他に“士気を高めるため”(13.8%)および“合格者は経済的に優遇されるため”(4.9%)等の、いわば労務管理的な受けとめかたと、“会社の評価・イメージを高めるため”とする選択肢にもほぼ同等の回答が示されており、会社が受検をすすめる理由を多様に理解している。

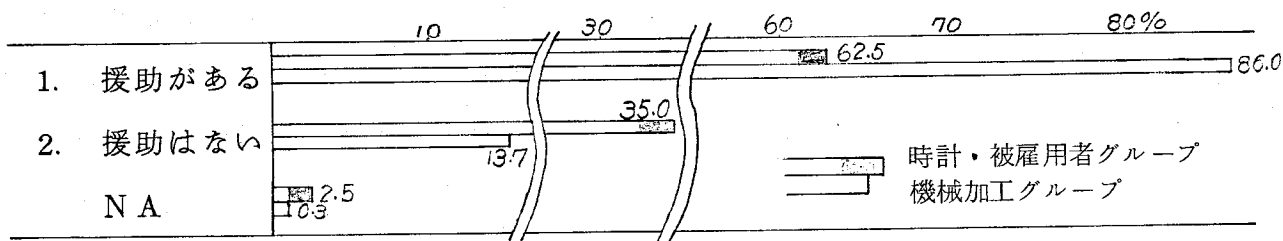
Q5 あなたの会社では、従業員が技能検定を受検する場合、何らかの援助をしていますか。

この問は、従業員が技能検定を受検する場合、企業の援助を受けて受検したか否

かについて調べるものである。したがって、この問は自営者からは回答を求めておらず、被雇用者である時計修理・被雇用者グループと機械加工グループのみを調査の対象とした。

図13はそのまとめである。

図13 受検に対する援助の有無



◇ 結果の説明

主として大規模企業の被雇用者が多い機械加工グループでは、“援助を受けて”受検したと回答する者は86.0%であるのに対して、小売店被雇用者である時計修理・被雇用者グループでは62.5%と、機械加工グループに比べて大きな差が認められる。

この回答はQ3で、合格者の所属する企業において技能検定に対する積極性があると受けとめている回答とほぼ合致するもので、技能検定の受検をすすめている会社では、受検をすすめることと援助措置とがほぼ一体の関係にあることをよみとることができる。

ところで、援助の有無と企業規模とはどのような関係にあるのであろうか。

表14によれば、“援助を受けて”受検した者は、機械加工グループについてみれば、99人未満の企業に所属する者では53.3%であるのに対して、100人以上999人未満では78.3%となり、1000人以上の企業に所属する者では89.0%と、企業規模が大きくなるにしたがって“援助を受けて”受検したとする者の回答が高くなっており、企業規模と援助措置とが関係あることが推測される。

表14 企業規模による援助の有無(機械加工グループ)

%

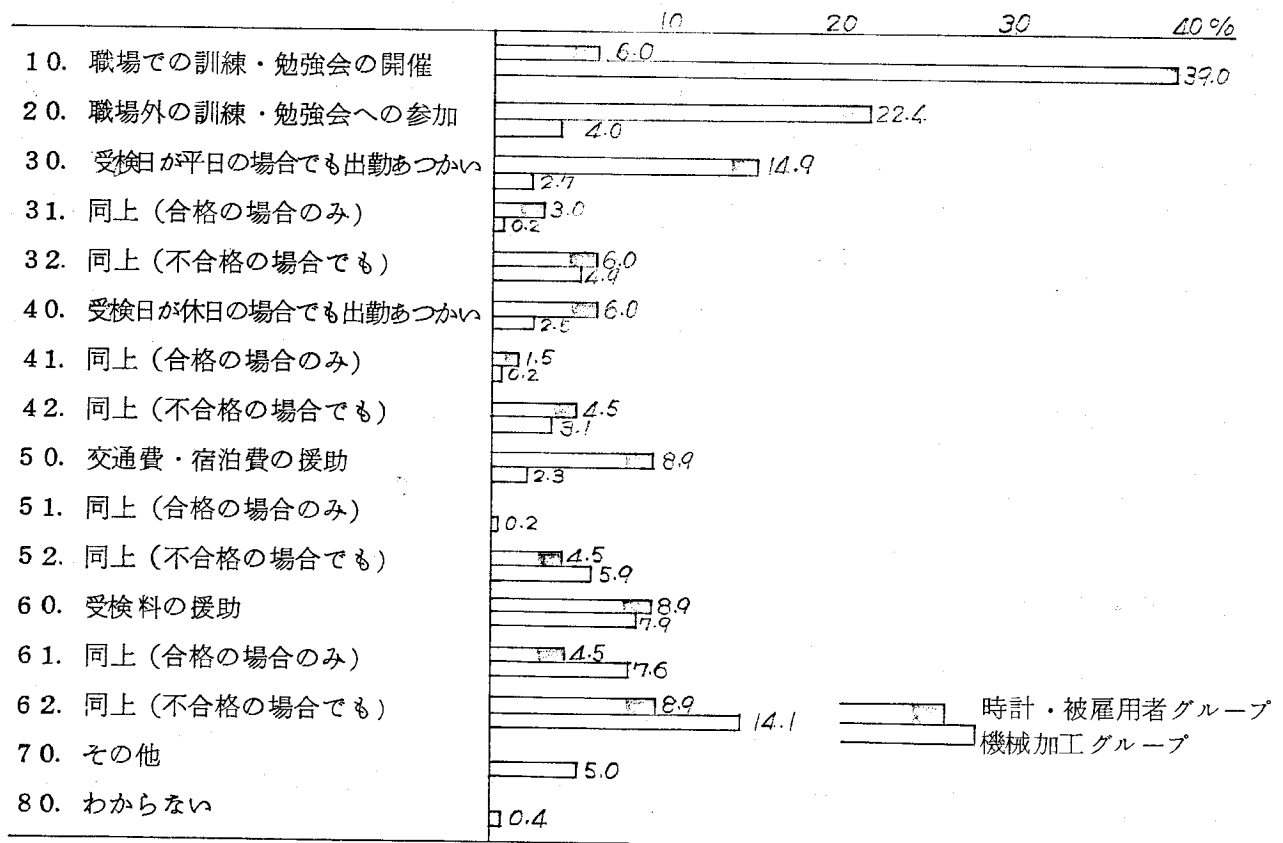
企業規模 援助の有無	全 体 N=342	1~99人 N=15	100~999人 N=46	1,000人以上 N=281
1. 援助がある	86.0	53.3	78.3	89.0
2. 援助はない	13.7	46.7	21.7	10.7
3. NA	0.3			0.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0

Q6 あなたの会社でしてくれる援助とはどのようなものですか。

この問はQ5で“援助を受けて”受検した者に対し、その援助とはどのような内容のものであったかについて調べるものである。

図14はそのまとめである。

図14 援助の内容

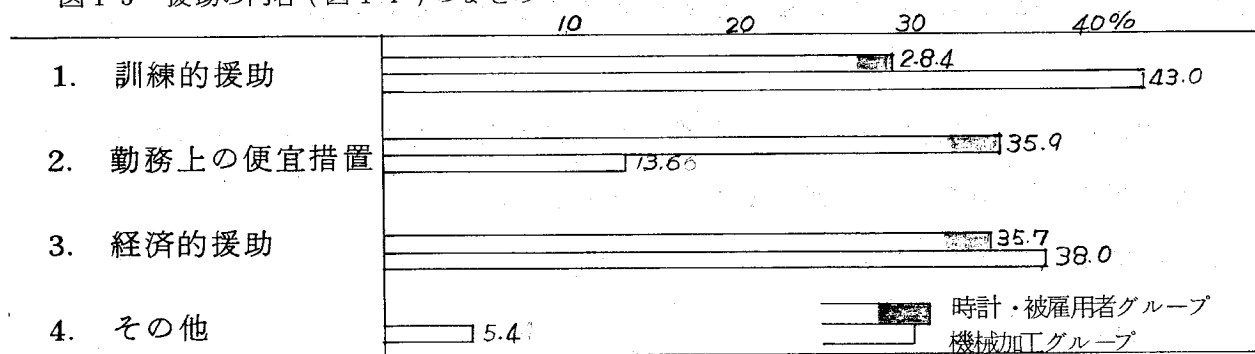


Q 6 は 1 6 の選択肢で構成されているが、大別すれば次の四つのカテゴリーにまとめることができる。

事業所が行う援助の内容	— 訓練的援助 ……………	選択肢 10 . 20
	— 勤務上の便宜措置 ……………	” 30 ~ 42
	— 経済的援助 ……………	” 50 ~ 60
	— その他 ……………	” 70 . 80

このカテゴリーによって図 1 4 をまとめたのが図 1 5 である。

図 1 5 援助の内容 (図 1 4) のまとめ



◇ 全般的特徴

図 1 5 から、時計修理・被雇用者グループと機械加工グループに特徴的なことは、第 1 のカテゴリーである訓練的な援助に対して示された回答は機械加工グループに高く (4 3.0 %)、第 2 のカテゴリーである勤務上の便宜措置に対しては時計修理・被雇用者グループに高い (3 5.9 %) 回答が示されていることである。

◇ 結果の説明

上記の特徴は、個々の選択肢を比較することによってさらに明確になる。それは図 1 4 によれば、訓練の実施について“ 職場での訓練・研究会の開催 ”を望むとす

る選択肢に対する回答が、機械加工グループでは39.0%であるのに対して、時計修理・被雇用者グループでは6.0%と極めて少ないこと、逆に、“職場外の訓練・勉強会への参加”を望むとする選択肢に対しては、時計修理・被雇用者グループでは22.4%の回答があるのに対して、機械加工グループでは4.0%にすぎないことに表われている。

そして、時計修理・被雇用者グループの場合、もっとも特徴的なことは、第2の категорияである勤務上の便宜措置に対する回答が機械加工グループに比べて高いことである。つまり、機械加工グループでは13.6%であるのに対して時計修理・被雇用者グループでは35.9%の回答があり、約22%余りも高く回答されている。

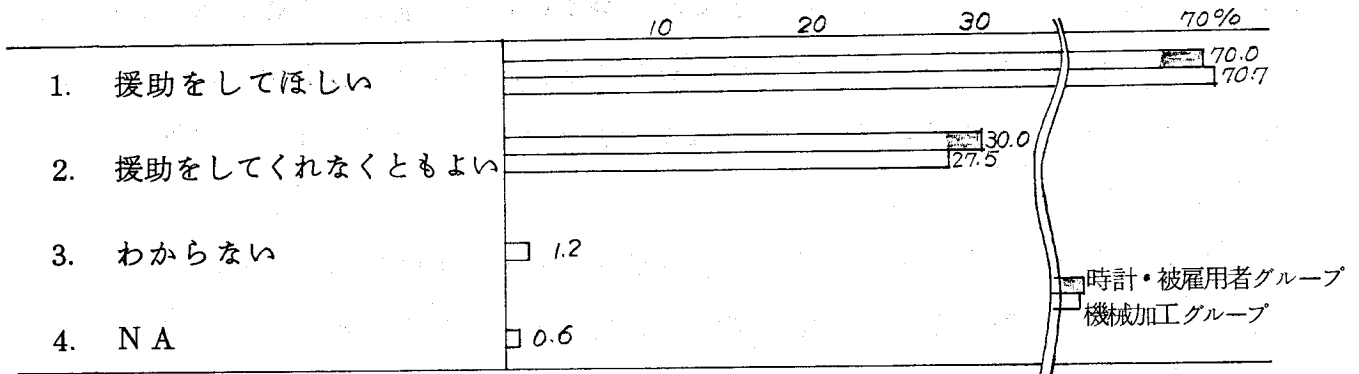
また、受検に際し、交通費、宿泊費、あるいは受検料等の援助に対するcategoryについては、時計修理・被雇用者グループでは35.7%、機械加工グループでは38.0%と大きな差は認められない。しかし、個々の選択肢についてみると“交通費、宿泊費の援助”については両グループとも、仮りに受検者が不合格の場合でも援助をする傾向があるのに対して、“受検料の援助”については不合格の場合でも援助があるという回答が、時計修理・被雇用者グループでは8.9%、機械加工グループでは14.1%示されているものの、“合格の場合のみ”に限定されているものも時計修理・被雇用者グループには4.5%、機械加工グループには7.6%あり、援助の内容に特徴がある。

Q7 あなたは、技能検定を受検するにあたって、会社が受検料を援助することについてどう思いますか。

この問は、受検料等の経済的な援助を、会社が個々の受検者に与えることについて調べるものである。したがって、この問は自営者からは回答を求めておらず、被雇用者である時計修理・被雇用者グループと機械加工グループを調査の対象とした。

図16はそのまとめである。

図 1 6 受検料の援助に関する希望



◇ 結果の説明

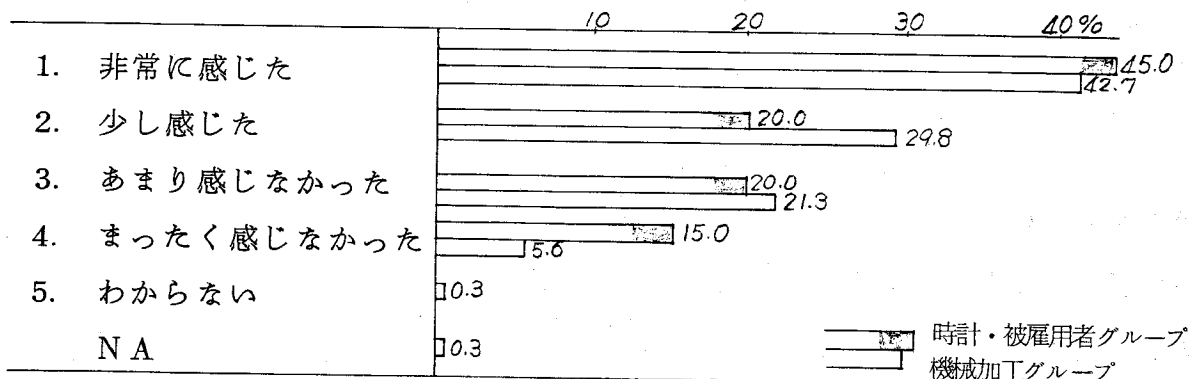
受検料等の経済的な援助に対する期待意識について、“援助をしてほしい”とする者の回答は、両グループとも約70%であるのに対して、援助を否定する立場をとる者は時計修理・被雇用者グループでは30.0%、機械加工グループでは27.5%あり、一般に技能検定の受検者は受検にあたって経済的な援助を受けることを希望している者が多いといえる。

Q 8 あなたは、技能検定1級の受検に際し、自分の技能や知識を高めるための特別の訓練や勉強会等について、会社からの援助の必要性を感じましたか。

Q 7 が受検料等の経済的援助の有無について調べたのに対して、Q 8 は訓練的な援助について、受検をした者の立場にある者が、どのような意識をもっているかを調べるものである。なお、この問は自営者からは回答を求めておらず、被雇用者である時計修理・被雇用者グループと機械加工グループを調査の対象とした。

図 17 はそのまとめである。

図 1 7 訓練的援助に関する希望



◇ 結果の説明

訓練的な援助に対する期待意識について、選択肢のうち“非常に感じた”と“少し感じた”の二つをまとめて必要者とし、“あまり感じなかった”と“まったく感じなかった”の二つを不必要者とすれば、訓練的な援助を必要と感ずる者は、時計修理・被雇用者グループ（65.0%）よりも機械加工グループ（72.5%）のほうに高く回答されている。

一方、不必要であるとする者は、時計修理・被雇用者グループの35.0%であるのに対し、機械加工グループでは26.9%と低く回答されている。このうち、“まったく感じなかった”ものについてみると、機械加工グループでは5.6%であるが、時計修理・被雇用者グループでは15.0%と、両者の間には訓練的援助の必要性について、やや異なった意識がみられる。

このQ8で訓練的援助を必要とすると答えた者と、Q7で経済的援助を必要とすると答えた者との回答を比較すれば、経済的な援助も訓練的な援助もともに、援助を期待する意識は時計修理・被雇用者グループよりも機械加工グループの方に高く表われている。

いま、ここで示された回答を、Q5で技能検定を受検するに際し、企業の援助の有無の実際について分析した結果と比較してみると（Q5では援助の具体的内容については問題にしていない）、時計修理グループでは、Q5で62.5%のものが実際に“援助がある”と回答しているが、経済的にも、訓練的にも“援助がほしい”

とする者は、それぞれ67.5%、65.0%と、援助の実際以上の期待意識を現わしている(図18)。

図18 時計修理・被雇用者グループ

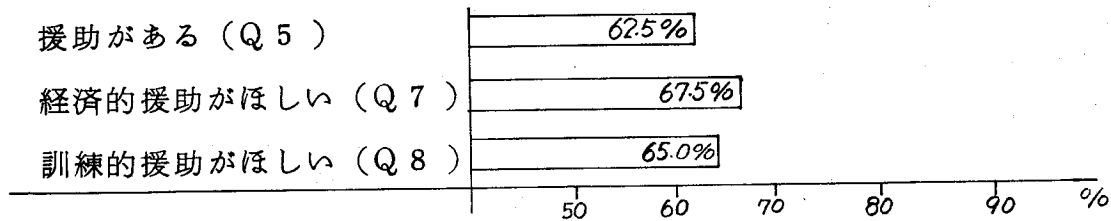
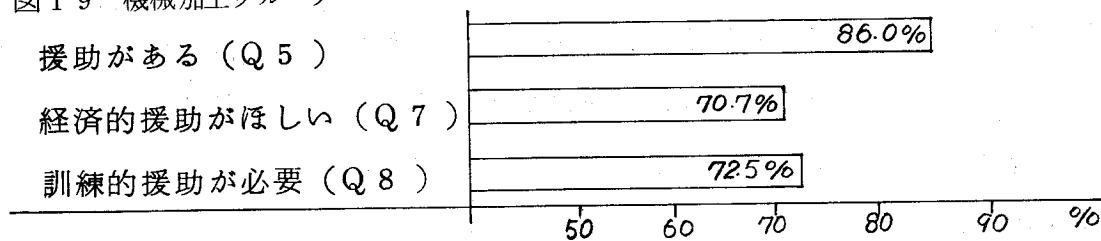


図19 機械加工グループ



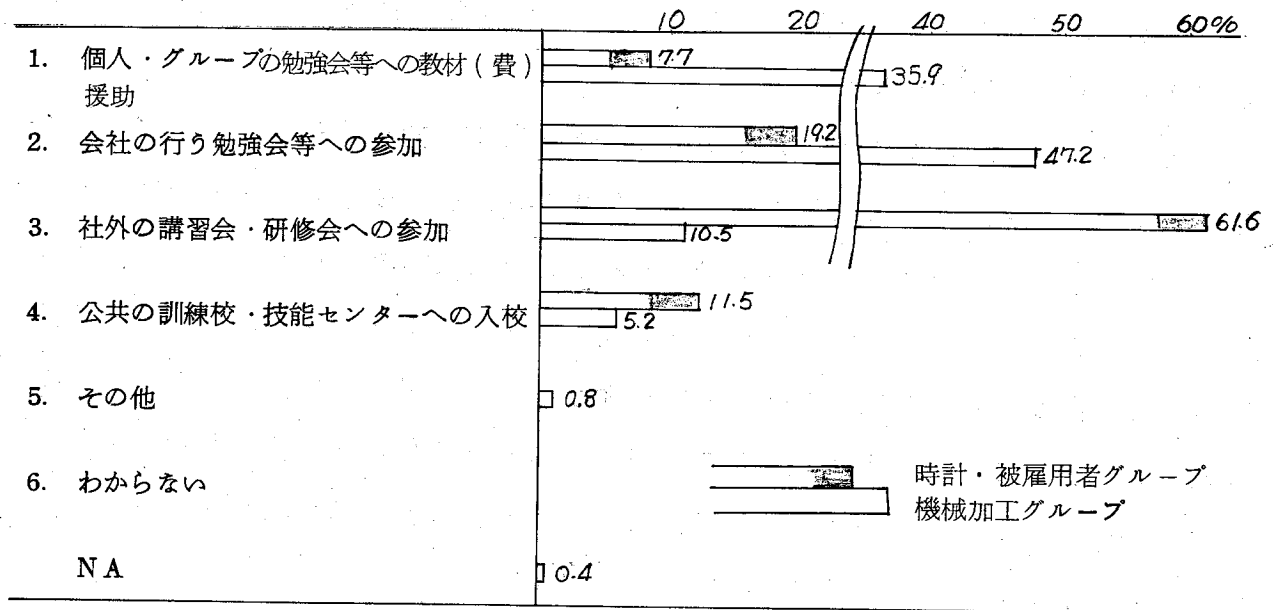
一方、機械加工グループでは、Q5で“援助がある”と回答したものは86.0%にもおよぶが、しかし、実際に“援助がほしい”という期待意識をもっている者は、経済的援助については70.7%、訓練的援助については72.5%で、援助の実際以下の期待意識である。(図19)

Q9 あなたが必要を感じる特別の訓練や勉強会はどのようなやり方がもっとも効果的だと思いますか。(その方法が可能であるか否かは別にして)

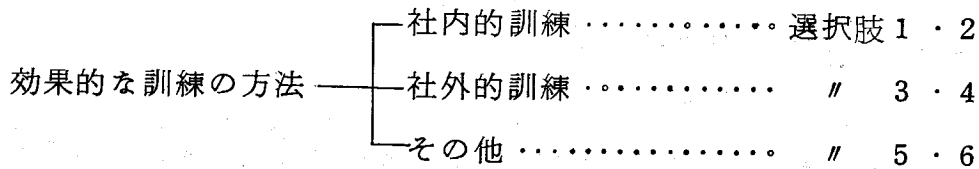
この問は、Q8で訓練的な援助を希望すると回答したのものについて、どのような援助の方法が受検にもっとも効果的であるかという点について調べるものである。

図20はそのまとめである。

図 20 効果的な訓練的援助の内容

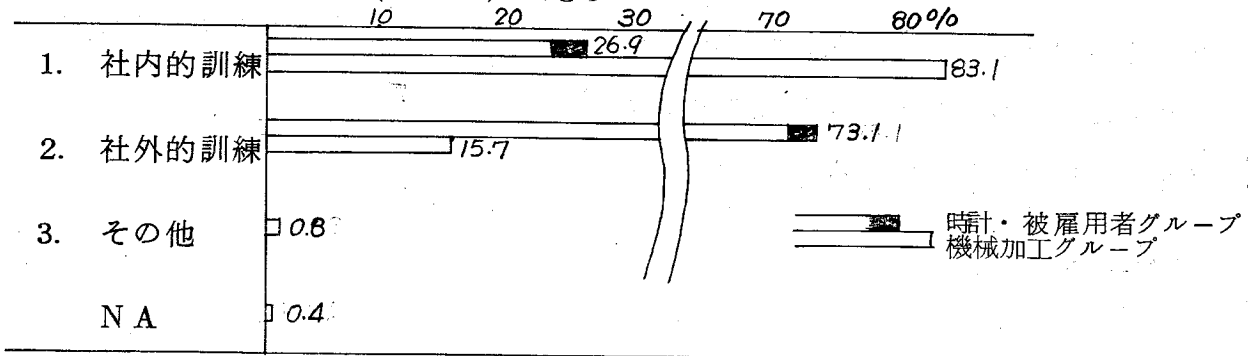


Q 9は6の選択肢で構成されているが、大別すれば次の三つのカテゴリーにまとめることができる。



このカテゴリーによって図20をまとめたのが図21である。

図 21 効果的な訓練的内容(図20)のまとめ



◇ 結果の説明

効果的な訓練の方法についての考えかたは、時計修理・被雇用者グループと機械加工グループでは異なっている。

すなわち、図20および図21によれば、時計修理・被雇用者グループでは“社外の講習会，研修会への参加”あるいは“公共の訓練校，技能センターへの入校”等の社外の施設で行われるコースに参加することを効果的であるとする者が73.1%と高い回答を示しているのに対し、機械加工グループでは15.7%と社外的訓練に対する期待は低い。このことは、機械加工グループの場合，“個人，グループの勉強会等への教材（費）援助”（35.9%），あるいは“会社の行い勉強会等への参加”（47.2%）など、職場を基盤にした方法がもっとも効果的であるとする選択肢に逆の結果となって回答されている。

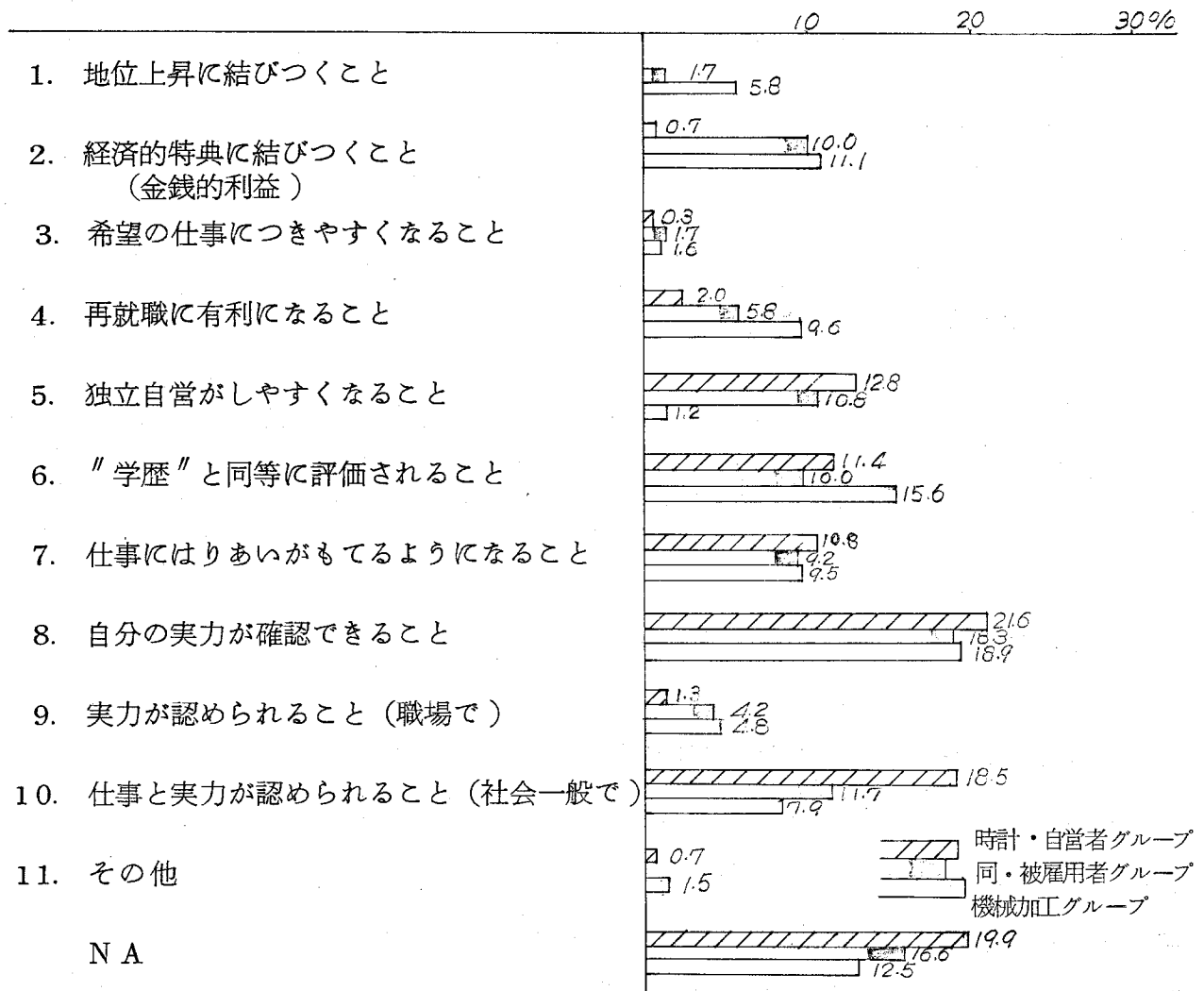
しかし、社外的訓練に期待する意識の強い時計修理・被雇用者グループにおいても、訓練的な援助の方法として，“公共の職業訓練校，技能センター”を対象として意識する者は少ない（11.5%）し、また職種的には公共の職業訓練校と密接な状態にある機械加工グループにおいても、この傾向はさらに強く（5.2%），公共の訓練施設が意識される割合は少ない。

Q10 あなたは、技能検定1級に合格していることを、あなた自身にとってどのように役立たせることができればよいとお考えですか。

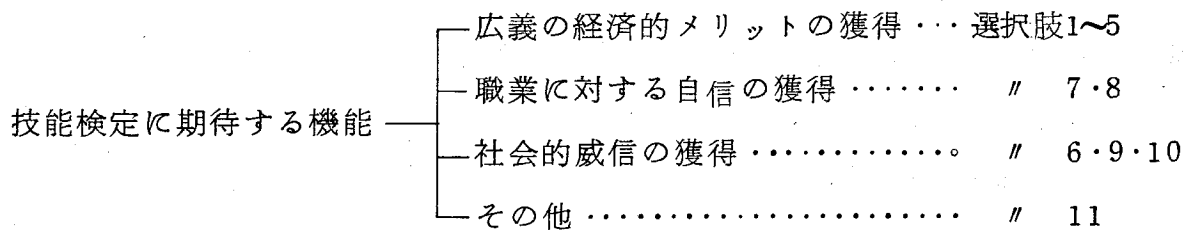
Q10は、現在、技能検定に対して抱いている期待がどのようなものであるか、また、その期待は、技能検定2級の受検動機，1級の受検動機とどのような点で異なっているかについて分析するものである。

図22はそのまとめである。

図 2 2 技能検定に対する期待の内容

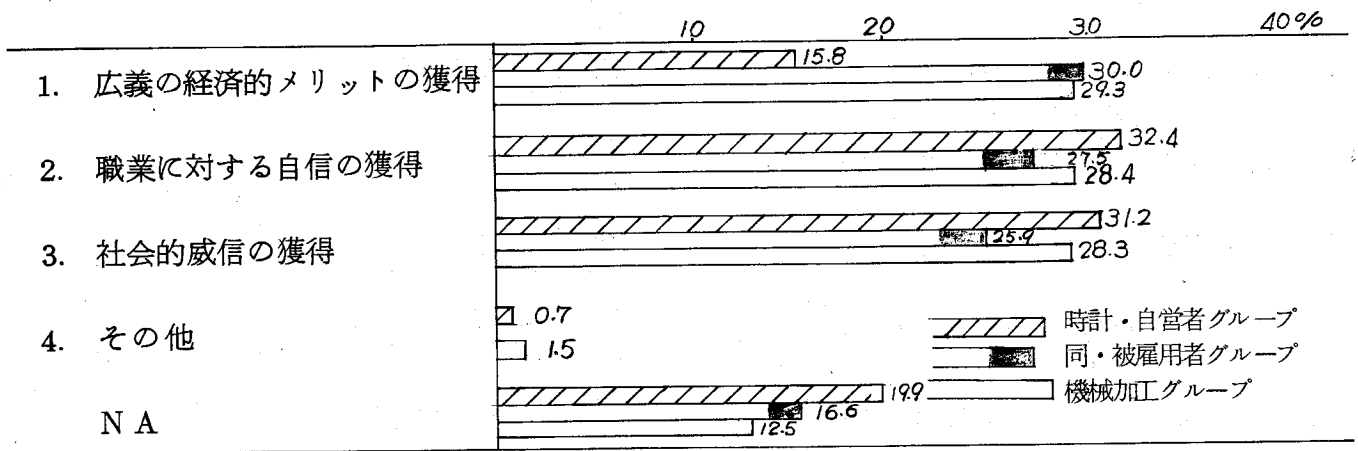


Q 1 0 は 1 1 の 選 択 肢 で 構 成 さ れ て い る が ， 大 別 す れ ば 次 の 四 つ の カ テ ゴ リ ー に ま と め る こ と が で き る。



このカテゴリーによって図 2 2 をまとめたのが図 2 3 である。

図 2 3 技能検定に対する期待の内容 (図 2 2) のまとめ



◇ 結果の説明

時計修理・自営者グループは、技能検定に対して、“自分の実力が確認できること”という、第2の категорияである職業に対する自信の獲得、あるいは“仕事と実力が社会的に認められること”、“学歴と同等に評価されること”等の第3の categoriaである社会的威信の獲得を技能検定に期待する傾向があり、時計修理・被雇用者グループは逆に、“経済的な特典に結びつくこと”あるいは“独立自営がしやすくなること”等の、第1の categoriaである広義の経済的メリットの獲得を期待する傾向が強い。これに比べ職業に対する自信の獲得、社会的威信の獲得に対する期待は低く現われている。

一方、機械加工グループでは広義の経済的メリットの獲得、職業に対する自信の獲得、社会的威信の各 categoriaにはほぼ等分されて、期待の内容が多様である。

これを選択肢ごとに比較してみると、まず第1の categoriaである広義の経済的メリットの獲得は選択肢の1から5までが該当するが、時計修理・自営者グループでは、この categoriaに対する回答は15.8%と同・被雇用者グループに比べて低い。しかし、その中で特徴的なことは、“独立自営がしやすくなること”とする選択肢に12.8%の高い回答が示されていることで、広義の経済的メリットの獲得を

構成する他の選択肢に対する回答と比較した場合、極めて強く意識されている。

時計修理・被雇用者グループの場合では、広義の経済的メリットの獲得に対しては30.0%と、同・自営者グループと比べ高く回答されているが、その中で特徴的なことは、時計修理・自営者グループと同様に“独立自営がしやすくなること”とする選択肢に強い(10.8%)関心を示しているとともに、“経済的特典に結びつくこと”(10.0%)、“再就職に有利になること”(5.8%)等の、自己の生活の向上のために労働市場の移動を可能ならしめる点に関心をもっていると思われる。

一方、機械加工グループでは、広義の経済的メリットの獲得を構成する選択肢に対して回答された割合は29.3%と、同じ被雇用者である時計修理・被雇用者グループに比べて大きな差はないが、これを個々の選択肢ごとに比較した場合、かなり特徴的である。それは、時計修理・被雇用者グループでは“独立自営がしやすくなること”とする選択肢に対して10.8%の回答があったのに対して、機械加工グループでは1.2%にとどまっていること、また“地位上昇に結びつくこと”とする選択肢に対しては、時計修理・被雇用者グループが1.7%であるのに対して、機械加工グループでは5.8%と高く回答されていることである。また“再就職に有利になること”についても前者が5.8%であるのに対して、機械加工グループは9.6%と差が認められることで、同じ被雇用者であっても期待する内容には特徴がある。

つまり、機械加工グループの期待としては独立自営を期待する意識はほとんどない反面、技能検定に合格することが、労働市場を横断的に移動すること、あるいは同一職場内で地位上昇に機能してほしいという期待が時計修理・被雇用者グループよりも強く意識されているのである。

また、第2の категорияである職業に対する自信の獲得は選択肢の7,8が該当するが、これを選択肢ごとに比較した場合、時計修理・自営者グループでは“仕事にはりあいがもてるようになること”(10.8%)についても、“自分の実力が確認できること”(21.6%)についても高く回答されている。

つまり、被雇用者である時計修理・被雇用者グループと機械加工グループの場合、“仕事にはりあいがもてるようになること”とする選択肢については、それぞれ9.2%、9.5%とほとんど差はなく、また“自分の実力が確認できること”とす

る選択肢についても、それぞれ18.3%、18.9%とほとんど差を認めることはできない。

図23の三つのカテゴリーに対する回答のうち、職業に対する自信の獲得を構成する選択肢に対する回答は、前述の広義の経済的メリットの獲得を構成する選択肢にみられるようなグループ間に差が少ない。

第3のカテゴリーである社会的威信の獲得は選択肢の6,9,10.が該当するが、このうち技能検定に合格していることを社会一般が学歴をもっていると同じ価値として評価してくれることを期待したいという選択肢“学歴と同等に評価されること”について、時計修理・自営者グループでは11.4%、同・被雇用者グループでは10.0%、そして機械加工グループでは15.6%と、学歴を意識した回答が高い。中でも、主として大規模企業の被雇用者が多い機械加工グループにおいてもっとも高く回答されているが、主として小売店店主である時計修理・自営者グループにおいても、同・被雇用者グループよりも高い11.4%の回答がある。

社会的威信の獲得を構成する他の選択肢は“職場で実力が認められること”と、“社会一般で仕事と実力が認められること”の二つであるが、一般に、技能検定に合格していることを、職場内で認められたいとすることよりも、社会一般で技能検定に合格していることを認めてもらいたいとする意識が強い。このうち、“職場で実力が認められること”を期待するという選択肢に対しては、自営者よりも時計修理・被雇用者グループ、および機械加工グループの被雇用者に期待が強く、それぞれ1.3%、4.2%、4.8%となっている。また、“社会一般で仕事と実力が認められること”については逆に被雇用者よりも自営者に強く、被雇用者のうちでも主として大規模企業の被雇用者である機械加工グループよりも、主として小売店被雇用者である時計修理・被雇用者グループに期待が強く、それぞれ18.5%、11.7%、7.9%となっている。

ところで、Q1およびQ2は技能検定の受検の動機を分析し、Q10は技能検定に合格していることを、合格者自身にとってどのように役立たせることができればよいかという期待意識を分析したものである。

この三つの質問を構成する選択肢の内容がそれぞれ一部異なっており、これをこ

のまま比較することはできない。そこで、共通の選択肢で構成されているカテゴリー、広義の経済的メリットの獲得に限定して、合格者自身の技能検定に対する考えかたがどのように変化しているかについて分析し、図示したのが図24～26である。

これによれば、広義の経済的メリットの獲得は、時計修理（自営者・被雇用者とも）グループでは1級受検当時よりも1級合格後のほうが強く意識されている。また、機械加工グループについては、2級受検時からの比較が可能であるが、それによれば、広義の経済的メリットの獲得を期待するものは1級合格後では2級受検時の3倍弱にも高く回答され、技能検定に対する期待意識が変化していることがわかる。

図24 広義の経済的メリットの獲得に対する回答率の変化（時計修理・自営者グループ）

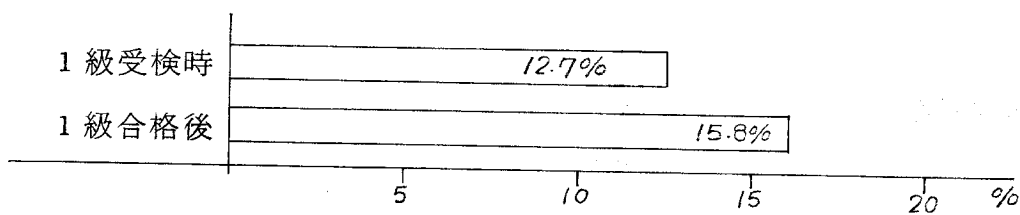


図25 広義の経済的メリットの獲得に対する回答率の変化（時計修理・被雇用者グループ）

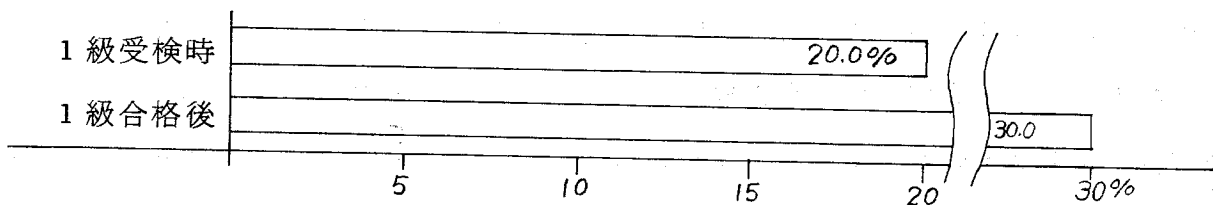
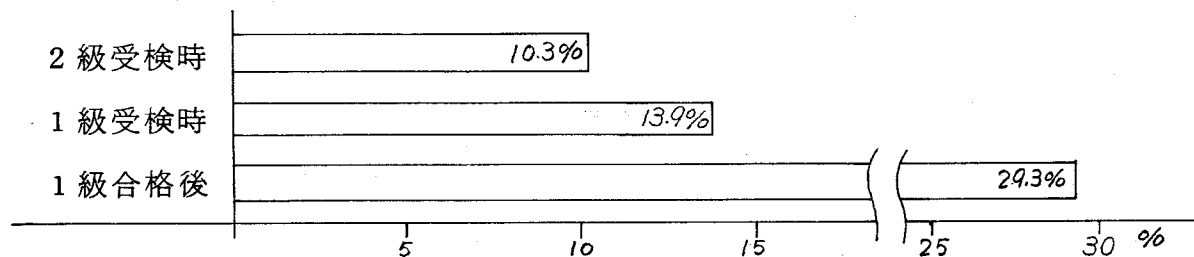


図 2 6 広義の経済的メリットの獲得に対する回答率の変化（機械加工グループ）



Q11からQ21までは、技能検定に合格したことが、合格者の意識にどのような影響を与えているかについて分析するものである。

回答はいずれも五段階評定尺度上に○印をつける方式を採用した。

表15は、それぞれの質問に対して回答された平均値の一覧で、質問に対して肯定する度合いを意味し、次のように評定した。

極めて肯定的回答	4.51～5.00
肯定的回答	3.51～4.50
中間的回答	2.51～3.50
否定的回答	1.51～2.50
極めて否定的回答	1.00～1.50

なお、表16は、表15をこの評定によって分類したものである。また、表15、および表16の備考欄（総高訓機械科指導員）に記入された数値は、総合高等職業訓練校の指導員を調査対象として別に計画した「職業訓練に職業資格を結びつけるための意見調査」において、同一の内容の質問を設定し、本調査との比較をしたものである。

表15 Q.11からQ.21で得られた平均値の一覧

質問事項	対象		時計	修理		機械加工	備考(総高訓機械科指導員)
	対	象		自営者	被雇用者		
Q.14 あなたは、技能検定に合格していることが、あなたの現在の人生にとってプラスになっていると思いますか		合格が現在にプラス	3.99	3.90	3.68		
Q.15 あなたは、技能検定に合格していることが、あなたのこれから(将来)の人生にとってプラスになると思いますか		合格が将来にプラス	3.67	3.65	3.60	4.45	技能検定に合格すると、合格者は合格していることがこれからの人生にとってプラスになると思いますか
Q.13 あなたは、技能検定は、その職種に関する技能・知識だけにとどまらず、他の職種の技能・知識を高めるためにも役立ったと思いますか		技能の多能的応用	3.57	3.90	4.09	4.04	技能検定に合格すると、その職種に関する技能・知識にとどまらず、他の職種の技能・知識を高めるためにも役立つと思いますか
Q.18 あなたは、技能検定に合格していると、離職しても新しい職場への就職が容易になると思いますか		再就職の可能性		3.58	3.27	3.93	技能検定に合格すると、合格者は離職しても新しい職場への就職が容易になると思いますか
Q.19 あなたは、技能検定に合格したことによって、班長や職長、あるいは、もっと上の管理的な立場になりやすくなったと思いますか		地位上昇		2.48	2.52	3.19	技能検定に合格すると、合格者は班長や職長、あるいはもっと上の管理的な立場になりやすくなると思いますか
Q.16 あなたは、技能検定に合格していることを、仕事上の仲間に対して誇りに思っていますか		誇り(社内的)	3.59	3.20	3.20	3.64	技能検定に合格すると、合格者は合格していることを仕事上の仲間に対して誇りに思っていますか
Q.17 あなたは、技能検定に合格していることを、職場以外の社会一般の人々に誇りに思っていますか		誇り(一般社会)	3.60	3.28	3.06	3.35	技能検定に合格すると、合格者は合格していることを、職場以外の社会一般の人々に誇りに思っていますか
Q.12 あなたは、いろいろなことを考えあわせると、できれば上級の学校に進学しておいたほうがよかったですか		学歴の取得	3.43	3.90	4.32	3.07	社会生活上のいろいろなことを考えあわせると、できれば高校卒業あるいはそれ以上の学歴を取得した上で職業訓練を受けた方がよいと思いますか
Q.11 あなたは、技能検定は、あなたの仕事に関係があると思われる資格があれば、それも取得したいと思いますか		職業資格の取得	3.99	4.18	4.02	4.29	技能検定のほかに先生の担当する訓練職種に関係があると思われる職業資格があれば、それも、いずれは取得した方がよいと生徒たちにすすめていますか
Q.20 あなたは、技能検定に合格していることに対して、それにより賃金や手当を要求した方がよいと思いますか		能力賃金		4.00	3.62	3.49	技能検定に合格すると、合格者は合格していることに対して、それにより賃金や手当を要求するよりになると思いますか
Q.21 あなたは、現在の賃金体系の主流をなしている年功序列的な賃金体系は、よいことだと思いますか		年功序列		2.48	2.90	2.64	現在の賃金体系の主流である年功序列的な賃金の体系はよいことだと思いますか

☆ Q.18からQ.21までは、時計修理・自営者には回答を求めている。

☆ 数値は、5段階評定による平均値である。

表16 Q11からQ21で得られた平均値の評定別一覧

対象 評価	時 計		修 理		機 械 加 工	備 考 (総高訓機械科指導員)		
	自 営 者	被 雇 用 者	被 雇 用 者	被 雇 用 者				
肯定的回答	職業資格の取得	3.99	職業資格の取得	4.18	学 歴 の 取 得	4.32	合格が将来にプラス	4.45
	合格が現在にプラス	3.99	能力賃金	4.00	技能の多能的応用	4.09	職業資格の取得	4.29
	合格が将来にプラス	3.67	技能の多能的応用	3.90	職業資格の取得	4.02	技能の多能的応用	4.04
	誇り(一般社会)	3.60	学 歴 の 取 得	3.90	合格が現在にプラス	3.68	再就職の可能性	3.93
	誇り(社内的)	3.59	合格が現在にプラス	3.90	能力賃金	3.62	誇り(社内的)	3.64
	技能の多能的応用	3.57	合格が将来にプラス	3.65	合格が将来にプラス	3.60		
			再就職の可能性	3.58				
中間的回答	学 歴 の 取 得	3.43	誇り(一般社会)	3.28	再就職の可能性	3.27	能力賃金	3.49
			誇り(社内的)	3.20	誇り(社内的)	3.20	誇り(一般社会)	3.35
					誇り(一般社会)	3.06	地位上昇	3.19
					年功賃金	2.90	学 歴 の 取 得	3.07
					地位上昇	2.52	年 功 賃 金	2.64
否定的回答			地位上昇	2.48				
			年功賃金	2.48				

◇ 全般の特徴

各グループを通して，“極めて肯定的回答”，“極めて否定的回答”に評定される質問項目はみあたらず，また“否定的回答”に評定される質問項目も時計修理・被雇用者グループの“地位上昇”と“年功賃金”の二質問項目のみで他の質問はいずれも“肯定的回答”，“中間的回答”に位置している。

◇ 結果の説明

時計修理・自営者グループでは7質問に対して6質問までが肯定的に回答しており，一般に技能検定に合格したことを好意的に意識しているといえる。

それでは，肯定的に回答された質問項目についてみてみよう。まず，技能検定に合格したことが，“現在の自分の人生にプラスになっている”という意識が強く現われている（平均値3.99）が，しかし，技能検定に合格していることが，将来にわたっても，自分の人生にプラスになるという点については，期待はされているものの，示された割合は低く，その平均値は3.67にとどまっている。それでは，この“現在の人生にプラスになっている”ことは，どのようなことを意味しているのであろうか。それは，合格者の社会的威信の形成にかかわりのある“誇り”について，“一般社会”（平均値3.60）に対しても，“社内的”（平均値3.59）に対しても肯定する割合の高いこと，および，技能検定の合格を目的として努力したことが，関連する他の職務の習熟にも役立つかという質問に対し（“技能の多能的応用”，平均値3.57），肯定的回答がなされていることから判断して，技能検定は関連職務の習熟と，社会的威信の形成にかかわりがあると考えられる。

このグループにとって特徴的なことは，“学歴の取得”に対する意識が中間的回答に位置していることである。この“学歴の取得”をしようとするのと，自分の仕事に関連する職業資格の取得をしようとする意識とを比べた場合，“職業資格の取得”に対する平均値が3.99と高く示されているのに対して，“学歴の取得”に

に対する平均値は 3.43 と、職業資格の取得をより強く意識しているのである。

ところが、同じく時計修理 1 級合格者であっても、同・被雇用者グループの場合では、技能検定に対する意識は異っている。

このグループの場合、技能検定の合格が“再就職の可能性”に寄与する（平均値 3.58）と意識する傾向がみられる。そして、技能検定に合格していることを月々の給与に反映してほしいという意識（“能力賃金”平均値 4.00）が強いが、このことは逆に、年功的な賃金の体系を肯定することの平均値が 2.48 と低く示されていることに表われている。しかし、技能検定に合格していることを、経済的メリットに結びつけて意識する反面、合格していることを“社会一般”に対しても、“社内的”にも誇りうるものと意識する度合いはいずれも中間的回答に位置し、その平均値はそれぞれ 3.28、3.20 と低く示され、社会的威信の形成には結びついていないと意識していると思われる。

しかし、技能検定の合格を目的として努力したことが、関連する他の職務の習熟にも役立ったとする意識は高く（平均値 3.90）示されており、合格者の技能、知識の幅を広げるのに役立ったとする意識が強い。

また、仕事に関連する“職業資格の取得”に対する意識も強いが（平均値 4.18）、“学歴の取得”に関しても、その平均値は 3.90 と高く示されている。この“職業資格の取得”と“学歴の取得”についての平均値の差は、時計修理・自営者グループでは 0.56 であったのに対し、同・被雇用者グループでは、“職業資格の取得”に対する平均値が強く示されている反面、“学歴の取得”に対する平均値も高く示され、その平均値の差は 0.28 と接近し、職業資格と学歴とがともに関心の対象とされていることがわかる。

なお、技能検定に合格していることが職場内の“地位上昇”に結びついているかという質問に対しては、このグループが主として小売店の被雇用者であるという特殊性もあって、これに肯定する度合は低い。

機械加工グループでは、11 の質問のうち肯定的回答に位置するものは半約の 6 質問のみで、5 質問は中間的回答に位置している。

この機械加工グループの場合、技能検定に合格していることが、現在の人生にプ

ラスになっているという意識は肯定的回答に位置してはいるもののその平均値は3.68と同じく被雇用者である時計修理・被雇用者グループに比べて低い。しかしながら、それを将来の人生にプラスになるかという質問に対しては、その平均値は3.60と、ほぼ同様の平均値が示されている。

この、合格していることが「現在の人生にプラスになっている」という質問に対して、比較的低い平均値しか示されなかったことは、次のような結果ともかかわっていると考えられる。それは、技能検定に合格していることが、再就職を容易ならしめるという労働市場の横断的移動に対しても、技能検定は十分に機能するものではないという意識に加えて、現在の職場においても「地位上昇」（平均値2.52）のためにも機能しないということ。また、このグループでは技能検定に合格していることを誇りにすることを「社内的」（平均値3.20）にも、「一般社会」（平均値3.06）に対しても、積極的に誇りうるものではないという意識にあらわれているといえよう。

しかし、技能検定の合格を目的として勉強したことが、合格者の技能、知識の幅を広げるのに役立ったとする意識は他のグループに比べて高く示されており、その平均値は4.09である。

このグループに特徴的なことは、同じく被雇用者である時計修理・被雇用者グループでは「職業資格の取得」と「学歴の取得」とを比べた場合、「職業資格の取得」を肯定する意識が強く示されているのに対して、「学歴の取得」により強い意識が示されていることである。しかも、それは「職業資格の取得」を肯定する意識を強く示しながら（平均値4.02）、それ以上に「学歴の取得」を肯定する意識が強い（平均値4.32）という点に特徴があり、主として大規模企業の被雇用者が多い機械加工グループにとって、学歴の取得に関する関心は、職業資格を取得することによって弱められるものではないといえる。

2. 自由記述部門のまとめ

自由記述欄は、もともと質問に対する補足説明の資料を得ることを目的に設けられたものであり、事実を証明するものではない。記述の中には、記述者の思い過しによるものも含まれているかもしれないし、また、誤解にもとづく記述も含まれているかもしれない。これらの記述の一つひとつについて確認してはいない。

しかし、技能検定を活用することによって、社会人としての自からの威信の形成を求めようとする強い期待をそこに感じるとき、思い過しや誤解による記述があったとしても、その記述はそれ自体意味のあるものとして評価できるのである。したがって、ここでは記述の内容をありのままにとらえ、記述者の意識を事例的に浮きぼりにするようにこころみた。

記述の内容の多くは現行の技能検定に対する厳しい意見、希望であり、技能検定合格者が抱えている意識がどのようなものであるかについて充分に知ることのできるものである。

この自由記述欄に対する記述は、時計修理・自営者グループでは99人中30人、同・被雇用者グループでは40人中13人、そして機械加工グループでは342人中154人が記述しており、その記述率はそれぞれ30.3%、32.5%、45.0%である。

なお、記述の内容を大別すれば、技能検定の取得効果、試験内容、試験方法、検定制度およびその他の5つに類型化され、それに対する表明率は表17に示すとおりである。(記述のうち、一人の回答者によって異なった内容が複数記述されている場合には、それぞれを一つとして数えてある。したがって、Nは記述の件数を意味している。)

また、表17の内容をさらに細分化したものが表18である。

なお、本文中「」内に引用した文章は、いずれも自由記述の内容の全文、あるいは一部を原文のまま引用したものである。

表 1 7 自由記述の内容分類 (1)

内 容	対 象 者		機 械 加 工 N=264
	時 計 修 理 自 営 者 N=47	被 雇 用 者 N=19	
技能検定の取得効果	38.3	42.1	34.9
技能検定の試験内容	29.8	10.6	24.3
技能検定の試験方法	4.2	10.6	16.2
技能検定の制度	10.7	10.6	17.0
そ の 他	17.0	26.1	7.6
計	100.0	100.0	100.0

それでは以下に、記述された内容を事例的にみてみよう。

(1) 技能検定の取得効果

まず、時計修理・自営者グループのうちでこの“取得上の効果”についての記述は全体の38.3%を占めているが、この内容をさらに細かく分けると、“社会的な評価”に関する記述と“魅力”に関する記述とに分けられる。“社会的な評価”に関する記述の内容を端的にいうならば、技能検定1級に合格しても、現行の技能検定には社会的な権威が伴っていないことに不満を表明する記述である。この権威が伴っていないことについて、その理由をさらに分析してみると、例えば「時計業界においては昔ながらの考え方が強いので技術・技能を身につけても、自分に対してプラスにならない」と述べていることにかがえるように「時計業界に技能を評価する体質が伝統的にない」ことを指摘し、現行の技能検定にはこの伝統的な体質に打ち勝つほどの権威がいまだ伴っていないことを理由とする者、あるいは、技能検定そのものが社会一般で評価されていないことを理由にして、「結果として自己満足に終り勝ちになること」に不満を抱くことになるものとするものである。

多くの合格者が技能検定に対して望んでいることは、具体的なメリットの獲得である。例えば、「技能検定については技術の向上、自分の仕事についての自覚、誇りをもつことに意義がある」という者も、それは「理容師・美容師のように（資格が…傍点筆者）なくても商売ができるということ、……この状態を改善しなければ」と述べており、ある種のメリットに支えられなければ自覚、誇りに結びつきにくいことを記述しているのである。

さて、自営業者にとって“ある種のメリット”とは何を意味するものであろうか。本分類では“魅力について”という分類が該当するが、その中で取り上げられていることは“営業上の制限を付与すること”であるといえる。それは「他の業界では免許がなければ営業できないのに時計業界では免許がなくても営業できるのは不満である」という意見に現われており、「店員として勤務する場合も関係がなく」、まして「1級に合格している否とにかかわらず、修理料金は同じで」、努力が具体的なメリットとして反映しないことに対する強い不満である。

一方、被雇用者である時計修理・被雇用者グループでは42.1%と、三グループ中もっとも高い表明率であるが、その大部分は合格者に対する地位・賃金等の企業における評価を問題として意識しているものである。ここで表明されているものは、被雇用者の立場から「一人の労働力としかみなされない」現状に対し、“技能・能力を評価する”慣行が確立されることを望んでいるものである。しかし、それにもかかわらず、「1級技能士の資格があっても事業所はあまり反響をもたず当り前のごとくに思っている……」という不満がある。能力に応じた賃金の支給を含めて、合格者に対する処遇の改善を求めるといのが時計修理・被雇用者グループに共通した意見であるといえる。

同じ被雇用者でも、時計修理・被雇用者グループでは“企業における評価について”が主体であったのに対し、機械加工グループで記述された内容は“企業における評価”をはじめ、“社会的評価”、“処遇上の基準”、あるいは“個人のメリット”等、記述の内容が分散しており、効果に対する関心が多様である。

それでは、“企業における評価”についてみてみよう。これは時計修理・被雇用者グループでもみられたように技能検定1級に合格していることを企業が評価して

表 1 8 自由記述の内容の分類 (2)

	時計修理		機械加工 N=264件	時計修理		機械加工 N=264件
	自営者 N=47件	被雇用者 N=19件		自営者 N=47件	被雇用者 N=19件	
A 効果						
1. 処遇上の基準について (地位, 賃金等の保証)		1 (5.3)	16 (6.1)			16 (6.1)
2. 企業における評価について (地位, 賃金等の優遇体勢)	1 (2.1)	5 (26.2)	32 (12.1)			10 (3.8)
3. 社会的評価について	9 (19.2)	1 (5.3)	27 (10.2)		2 (10.5)	5 (1.9)
4. 学歴との関連について			3 (1.1)			4 (1.5)
5. 魅力について (被雇用者)			2 (0.8)			8 (3.0)
6. " (営業者)	8 (17.0)					
7. 合格者の実力について			3 (1.1)			9 (3.4)
8. 企業のメリットについて			1 (0.4)		1 (5.3)	11 (4.2)
9. 個人のメリットについて		1 (5.3)	6 (2.3)			13 (4.9)
10. 技能水準の向上について			2 (0.8)		1 (5.3)	3 (1.1)
B 試験内容						
1. 検定問題の難易 (全体として) について	5 (10.6)	1 (5.3)	10 (3.8)			2 (0.8)
2. 学科試験の難易について						
3. 実技試験の難易について			1 (0.4)			3 (1.1)
4. 検定問題の内容 (全体として) について	9 (19.2)	1 (5.3)	6 (2.3)			2 (0.8)
5. 学科試験の内容について			26 (9.8)		4 (21.0)	3 (1.1)
6. 実技試験の内容について			21 (8.0)		3 (6.4)	12 (4.5)
C 試験方法						
1. 実施について						
2. 学科試験の免除について						
3. 受検制限について						
4. 試験の時期について						
5. 試験結果の発表について						
D 検定制度一般						
1. 検定制度の意義について						
2. 検定制度の周知について						
3. 等級の新設について						
4. 検定職種の拡大について						
5. 通信教育による学免の是非について						
6. 受検料について						
7. 試験体勢の整備について						
E その他						
1. 参考書類の整備について						
2. 行政的努力について						
3. 研修・講習・再教育について						
4. その他						
計	47 (100.0)	19 (100.0)	264 (100.0)	47 (100.0)	19 (100.0)	264 (100.0)

☑ 時計修理 (1級)・自営者 = 記述率 30.3% (30/99), 時計修理 (1級)・被雇用者 = 記述率 32.5% (13/40), 機械加工 (1級) = 記述率 45.0% (154/342)

☑ 記述の一覧のうち, 個人ごとの記述には印をつけ, かつ, 個人ごとの記述のうち, 内容的に異なった記述には・印をつけてある。

いないことに対する不満が中心である。つまり、賃金体系が技能検定合格者を優遇するようになっていないことに対する不満であり、記述者のうち技能検定の合格を賃金等の経済的な処遇に結びつけて意識している者の多いことが注目される。例えば、「現在の技能検定の資格が企業内において具体的に成果（賃金面）として表われてきていない面を考えると、苦勞して資格を取る意味はないように思う。最近、私の職場では検定試験に背を向ける人が多くなって……」おり、「受かったって、どうっていいことないし、馬鹿みたいな結果になるときもある」という記述にもみられるように、技能検定合格と賃金とは結びついてほしいという意識を強く表明しているのである。というよりも、この期待意識を越えて「技能検定に合格すれば給料が上るとか、上らなければ給料だけの仕事しかしない」という職場の雰囲気すらうかがえるのである。

しかし、技能検定合格者に対して上記のメリットを与えようとする場合、現在各企業によって採用されている賃金形態の上からも、また企業の収益上からも企業差のことは明らかである。こうした問題に対して合格者自身が考える対処の仕方に“処遇上の基準”を設定するという方法を指摘している。つまり、前記の“企業における評価”で記述された内容は、企業に対して技能検定合格者の処遇改善を要求することに対して、“処遇上の基準”は合格者の処遇の基準を全国レベルで統一したいという意識であり、前者が合格者の処遇の“企業内解決論”であるのに対して、いわば“法的解決論”ともいえるものである。例えば、「私の希望は資格取得後の地位とか賃金等について法律による裏付けが欲しいと思います」という意見は、技能検定制度の社会的な権威を高める一つの方法であると同時に、合格者個人の利益をも自衛するものであろうが、こうした意識の背景には、「技能検定合格者は会社等で能力を保護するよう法制化しなければ、資格者の能力は企業の都合のよい方に……」利用されることに対する懸念があると思われる。この処遇の基準を全国レベルで統一したいとする意識の表明は予想外に多い。

“社会的な評価”についての記述は時計修理・自営者グループでもみられたように主として技能検定に対する社会一般の評価が低いことを内容とするものである。しかし、同じ“社会的な評価”でも時計修理・自営者グループと若干異なる点は、

機械加工グループではしばしば学歴との対比で技能検定をとらえていることである。例えば「技能検定合格者には社会一般が学歴をもっていると同様な評価をもって迎えてくれることを望みたい」という記述は多くの合格者にとって共通した意識であると思われる。というのは「技能労働者にとって検定制度によって資格を得ることは、唯一の残された希望でもあり、夢でもある」ように社会的な評価を受けるために活用したいという強い願いを感じとることができるからである。しかし現実には先の「企業における評価」のところでも触れたように必ずしも合格者の願いを満足させるものではない。このような現実に対し、ある合格者は「学歴万能の日本ですから、十年もたてば大学卒の技能士が生まれ、社会的な評価も得られるでしょう。これは逆説的ですが……」と述べ、さらに続けて「技能士だからって給料上げるのだ、職長にしろだの、もの欲しそうな顔などしないでプライドをもちましょう。マー、プライドじゃ食っていけないけれど、それが技能士というもんでしょう。職人なんですか」と、みかたによってはかなり屈折した表現すらみられるのであるが、これなどは、むしろ技能検定に対する人一倍強い期待が裏がえされた気持であると感じとることができる。

この「技能検定の取得効果について」に記述された内容のうち、現実に対する不満、あるいは希望は多岐にわたって表明されているが、その不満、あるいは希望をどのように実現するかということについてはほとんど記述されていない。しいてあげるならば「処遇上の基準」で、処遇の基準を全国レベルで統一すること、あるいは、「現在よりも社会的効果のある自動車免許又は無線通信士のように」就業上の制限を伴ったものに技能検定を育成すること等であるが、これなども願望の域を出ているものではない。ある合格者の記述の中にも認められるが、合格者が横断的に結びつく組織のないことが、合格者個人個人の願望を具体化させない一因であるといえる。

しかし一方において、技能検定の合格を経済的な利益に結びつけることよりも、精神的な満足感として理解している者もいないわけではない。本分類では「個人のメリットについて」がこれに該当し、表明された件数は7件と、必ずしも大勢を占める意見ではないが、技能検定の効果の一つとして考えられているものである。例

例えば「自分自身に対して自信をもつことが出来、有形無形のかたちで自分自身に対してプラスになっています。仕事に対する自信の支えとしてでも、又、希望をもった生活ができるようになり、サラリーマン生活に生きがいを感じるようになりました。……持っている資格を少しでも汚す事はしたくないという意識が芽ばえ、努力する気になったという事は自分自身大きな収穫だと深く感謝しています」という記述、あるいは「自分自身の修養の上にも」、「他の仕事にも役立つことが多くよかった」という記述などは、技能検定を自分自身の成長の糧として理解しているものであることがわかる。

(2) 技能検定の試験内容

時計修理・自営者グループで“試験内容”に関する記述のあったのは14件(29.8%)であるが、その内訳は“試験問題の難易”についての記述と“試験問題の内容”についての記述である。まず、難易については5件表明されているが、記述の内容はさまざまで、「現在程度でよい」とする者、「少しの勉強では合格できない位に」難しくすることを望む者、あるいは検定委員をしたことのある回答者の一人は「他業種の検定にくらべて厳格すぎる」と述べており、試験の難易に関しては自営者である時計修理・自営者グループの記述に共通した点は少ない。しかし“試験の内容”についてはかなり共通点を見つけることができる。それは、「現在の時計技術の驚異的な進歩に対応した試験がなされていないこと」に対する不満で、技能検定の必要性を認めたと「内容はどこまでも実社会に適応したものでなくてはならない。唯、試験だけが浮き上がったものにならないよう、常に実社会に即応」した問題を考えることを提案しているのである。つまり、従来の機械式時計に関する問題の他、電子式時計、水晶、液晶、あるいは「近い将来に出現するといわれている太陽時計」等々、新技術をとり入れた試験でなければ意味はなく、これが改善されない限り「何をもって子弟に技能検定を強くいえましようや」という心境にいたらしめているといえよう。試験の内容を検討しなければ、技能検定の発展はおろか、このままでは技能検定に合格していること自体がマイナスの評価にすらなりうるこ

との危惧をも感じとれる。

このように新技術の時計に関する試験問題を導入することに対する意見は、同時に、後述するように“研修，勉強の機会の確保”がなくては不可能であることを意味しており，検定のための研修の必要性について記述する者も多い。

機械加工グループにおいては“試験内容”に関する記述は64件（24.3%）認められる。そのうちの53件（20.1%）は“試験問題の内容”について記述されているが，時計修理・自営者グループとは異なり，学科と実技とを別々に記述して問題の所在を明確にしている。すなわち“学科試験の内容”については26件記述されているが，このうち特徴的な記述は，“学科の出題に主旨のよく理解できないものがある”という指摘である。これは，問題の難易度ではなく，専門的に判断しても判定の下しよのない問題がしばしばみられるということで，「技術的なもの以外で，クイズ的な問題や程度の低い」問題があるということである。また解答の仕方についても記述されている。これは上記の“クイズ的な問題”に対する記述とも関連しているが，受検者の中には学科試験問題に「○か×か判断に困った」体験者も多くいること，また，現行の出題形式が「単に暗記することによって回答が可能である」という批判から，「実のある知識については，やはり書き込み方式の試験の方が大いにプラス」にもなり，それが技能検定の社会的権威をも培うものであるという記述である。なお，出題の範囲については，関連知識にまで拡げて出題すべしとする者，あるいはより限定した範囲から出題すべしとする者に分かれて記述されている。

一方，“実技試験の内容”については21件記述されているが，このうち特徴的な記述は実技課題の“公表”である。この内容に関して記述している者は，技能検定の権威性を高めることをまず念頭に記述していることがわかる。それは，レベルの低い技能士の出現によって技能検定1級の価値の低下を懸念しているものである。というのは，実技課題が事前に公表されることに対して「現行の方法では何も知らない素人でも一ヶ月位課題の練習をすれば楽に合格する。逆に，経験30年のベテランでも練習なしで受検したら確実に失敗する。……技能検定1級よりも勤続1年の方がずっと役に立つと……。検定そのものが馬鹿にされる理由はここにある」

と述べて、課題の事前公表に反対するのである。同様の記述は他にも多くみられるが、結果として課題の事前公表は技能検定の威信性を下げることになると指摘しているのである。これに関しては、本分類中の“検定問題の難易”に関連する記述がみられる。

(3) 技能検定の試験方法

“試験方法”に関する記述は時計修理・自営者グループおよび時計修理・被雇用者グループには記述が少ないので、機械加工グループの説明の中で注記することにした。

機械加工グループにおいてもっとも多く表明された記述は“試験の実施”に関する内容であるが、これを一口にいうならば試験の公正性の確保であるといえる。つまり、現行の検定試験は、その業務の一部を事業主又は事業主の団体に委託することができるようになってきているが、この方式による試験の公正性に疑問をもつ者の記述である。

例えば、検定委員を経験したことのある回答者の一人は自分自身の体験から「採点基準があっても主観採点がどうしても甘くなりやすいように感じる」と述べ公正な採点方法についての検討をうながしている。またある検定委員は「こんなデタラメな試験はないでしょう。……国家試験という権威ある検定がこんなことでよいのでしょうか」と述べているが、一般の受検者にしてもその受けとめ方は深刻である。その受けとめ方というのは試験に情実の入ることの指摘で、「社内において検定を行うとき、若干の手心があるようで」、合格ラインに入っていない場合でも合格している場合があるということ、あるいは「当日に不出来で、翌日に工作をさせて合格（2級）させる」ということなどである。その事実の確認は別にして、少くも、このような不信を一般にうえつけているとすれば、それは一つの問題であろう。このカテゴリーの中で、「公的監督者を試験場に立ち合わせる」ことが記述されている背景にはこのような問題があるからである。また、公正性の確保という視点から次のような指摘もある。それは、現行の委託検定が主として施設・設備の充実してい

る企業に委託されていることから生じる問題である。つまり、試験場を提供する企業の従業員は日頃使いなれた機械で受験することが可能であるのに対し、他社の従業員、ことに試験場として使われることのない中小企業の従業員にとっては「特に実技試験において小企業に働く者は不利になりがちである」という意見がそれである。この分類の中で試験場に関する記述に「工場で行わず、公的の所でのみ行う」べきことが記述されている背景はここにある。

“試験の実施”に次いで記述件数の多いのは“学科試験の免除”に関するもので、10件の記述が認められる。そのうちの1件は、技能検定2級の受検に際し、訓練校修了者の学科試験免除に対して不満を表明しているものであるが、他の9件はいずれも職業訓練指導員免許との関連について記述しているものと推測できる。このうち5件は明らかに職業訓練指導員免許との対比で記述しているが、残り4件にも、対比の気持ちのあることをうかがい知ることができる。それは「講習制度で学科試験を免除することは、その本人に対して勉強の努力を失わせる結果になると思いますので、この制度は一考をお願いします」という記述、あるいは「技能検定は検定として試験を行い免除する項があってはならないと思う……誰でも免除を受けられる講習会みたいなものはやめ、実力本位で合否を決める制度にしてもらいたい」とする記述がそれである。

ここに共通していることは、技能検定1級に合格するということは、職業訓練指導員免許を取得していることよりも評価されてしかるべきだという気持ちの表われである。つまり、技能検定1級の権威性を職業訓練指導員免許よりも上位にしているのであるが、現行の制度では、職業訓練指導員免許取得者に対して、技能検定1級の受検に際し、学科試験が免除されており（職業訓練法施行規則第65条）それが技能検定1級受検のステップとして利用されていることに対する不満である。これに関する記述者の気持ちは“認定”（講習）によって容易に取得できる職業訓練指導員免許に対して「それでは、まじめに学科にとり組んで合格した者が馬鹿をみかねない」、「実際には1級技能士合格後、指導員免許資格を与えるべきであると思う」という記述によく表われている。これは一面、職業訓練指導員免許制度に対する批判であるとも受けとめることができる。

次に記述の多いのは“試験結果の発表”に関するもので8件の記述がある。ここで記述されていることは内容的には学科試験を念頭において記述されているものと思われるが、試験問題の解答、受検者個人の得点の公表を希望しているものである。これには、先きにも説明したように、学科試験の問題に判断のしかねるものが多々あることに対し、その判断の結果についての確認をしたいとする気持ちが含まれている。つまり、「試験をやっても答がはっきりしないような所もあるために、自信がもてないような所があるので、答を公表してほしいと思う。又、自分は何点とれているかを通信等でわかるようにしてもらいたい」という記述にみることができる。

表明件数としては各グループを通して8件で決して多くはないが、合格者の気持ちをもっともよく表わしていると思われるものに“受検制限”に関する記述がある。ここで記述された内容は、ある意味で“学科試験の免除”で表明された記述と共通する点があると考えられる。それは、技能検定に権威性を求めようとすることである。ただ異なるのは“学科試験の免除”においては、その対象を職業訓練指導員免許との対比において記述しているのに対し、ここでは、とくに機械加工グループにおいては“学歴”との対比において記述していることである。つまり、技能検定1級合格者には、「技能検定の資格を（会社で……傍点筆者）学歴位に重要視してもらいたい」という気持ち、あるいは「技能士合格者には社会一般が学歴をもっていると同様な評価をもって迎えてくれることを望みたい」という気持ちが強い。技能検定を「唯一の残された希望であり、夢でもある」ほどに期待している者にとっては、「学歴などによって受検資格が違うのはなぜか」と素朴な疑問をもつのは当然であるし、「せめて技能検定の受検資格だけでも学歴による資格年数を平等にできたら」と考えるのはごく自然なことであろう。

以上のように、機械加工グループが“受検制限”を学歴との対比において記述しているのに対して、時計修理・自営者グループおよび時計修理・被雇用者グループは「誰でも自信のある人には経験年数に関係なく受検の場を与えるべきだと思ふ」という記述にも認められるように、実務経験の年数は不要であるとするものである。

(4) 検定制度一般

“検定制度”に関する記述は時計修理・自営者グループおよび時計修理・被雇用者グループには少ないので、機械加工グループの説明の中で必要に応じて注記していきたい。

機械加工グループにおいてもっとも多く表明された記述は“等級の新設”の13件、次いで“検定制度の周知徹底”の11件、そして“検定制度の意義”に関する記述の9件の順となっているが、ここではいま述べた逆の順序で説明をしていくことにする。

まず“検定制度の意義”であるが、これは先きのA9“個人のメリット”が技能検定に合格したことの効果についてまとめたものであるのに対して、“制度”そのものの効果についての記述である。ここに表明されている記述は、検定制度は、自己の進むべき目標が明確になること、仕事に愛着が生じること等の精神的な側面から是認するものと、技能レベルが向上することにより技術革新に対処できること、あるいは自分自身の技能レベルが確認できることにその効果を見出す者とに分けられるが、中でも、「若い世代は余りにも多様化した現状で、自己の進むべき道、亦責任を見失っているように思われてなりません。……価値ある人生を送ってもらうため」であるとか、あるいは「若い人の目標としてこれからは多くすすめたい」という記述にみられるように、若い技能者が技能者として立っていく上における方向性を定めさず手段として技能検定を活用しようとする記述が注目される。

しかし、それにつけて考えねばならないことは、合格者の記述をまとめる限り技能検定は若い技能者を方向づける魅力に欠けているという意識の強いことである。この問題については、すでに“技能検定の取得効果”で触れているので重複はさけない。だがそれ以前に、技能検定制度が関係者に周知されていないことの指摘が問題とされるのである。それは、「私の勤めている会社はこんな制度があったとは？（という程度の理解で……傍点筆者）」と記述しているように事業主にすら理解されていないという記述があることである。自由記述の中に、社会一般に対して技能検定が評価されることを望む声は強いが、それ以前に制度の存在すら充分に知ら

れていないという指摘がなされているのである。

“等級の新設”は現行の1級，2級の他に3級，あるいは1級の上位級の新設を希望する記述である。時計修理・自営者グループの記述を含めて15件の記述がある。このうち1件は3級の新設について記述しているが，他はいずれも1級の上位級（ここでは便宜上“特級”という）の新設に関するものである。この特級の新設を希望する者の理由は二つに分けることができる。その一方は，すでにこれまでも問題にされてきているように，試験の内容，試験の方法等から指摘される権威性の問題にも関わるが，現在の技能検定1級にはその権威性がともなっていないことを理由にするもので，「現在の技能士のレベルが低いのであれば」と述べ，現行の技能検定1級の代替として求めているものである。この立場から特級の新設を希望する者は他にも1～2件みられる。これらは現行の技能検定の1級にさほど権威を認めていない立場である。その第二は，現行の技能検定制度の権威を肯定した上で，さらに上の等級の新設を希望する意見である。つまり，「普通30才前後（早い人だと24才）で1級に合格すると，その後は目標がないので……」というように，技能検定制度を生涯を通じての人生の目標として活用するという積極的なものである。また，等級の新設を希望する意見の中には，試験の内容も「高等な（単一技能でなく，複合的，知識的なもの）検定を作ってもらいたい」というもの，あるいは「人格，学識，その他を重視する制度とし，終生技能人としての目標を与える必要がある」と述べて，技能検定特級の判定基準には，技能，知識以外のものをも考えるべきであるとする意見もみられるのである。

(5) その他

“その他”の中では“研修，講習，再教育”に関する記述が多く三グループで12件の記述がある。

時計修理・自営者グループでは，いずれの記述も“研修，講習，再教育”の必要性を強調するものであるが，その中には，技能検定が「常に実社会に即応し，且つ又，専門的な技能，知識を深めるために役立つような問題を当事者は考えるべきで

ある。そのためには、地域的な勉強会、講習会を適当に開き、専門的知識技能の習得に意欲を燃やすようにするべきである」と提言しているものもある。また、このような機会を通して技能士の横の連絡をはかりたいという記述もある。これは時計修理・被雇用者グループにみられるものであるが、「技術者は技術のみの勉強だけでなく、時計業界の時の流れなども速やかに把握しておかなければ現代のように技術の進歩の速い時代には遅れをとってしまう。その為に、統合的な情報を流せる大きな組織が欲しい」と述べて、技能士同志の横の連携の必要性を説いているのである。

また、機械加工グループでも「技能検定はわれわれ現場人にとって勉強するための大切な節となっている」と述べ、勉強の機会の提供を望んでいるのであるが、その場所について“訓大”を特定した者が3件中2件ある。

なお、少数意見ではあるが受検のための“参考書類の整備”について不備の実態を指摘する者もある。

集 計 票

Q 1. あなたが技能検定 2 級を受検したのは、どのような理由によるものですか。
 下の項目から該当するものを三つ選び○印をつけて下さい。

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工
	自 営 者	被 雇 用 者	N=188×3
1. 勤め先きで受検をすすめられたから			18.8
2. 職場の多くの人合格していたから			7.9
3. なんとなく安心するから			7.3
4. 経済的な特典があるから			1.1
5. 昇進等に有利になるから			1.8
6. 離転職に有利になるから			6.5
7. 独立自営がしやすくなるから			0.5
8. 職場で「ハク」がつくから			1.4
9. 勉強にもなり、実力をたしかめられるから			24.1
10. 1 級を受検するためのステップとして			9.6
11. 職業訓練指導員免許を得る手段として			2.3
12. 希望の仕事につきやすくするため			0.4
13. ただなんとなく			2.5
14. その他			0.4
NA			15.4
計			100.0

Q 2. あなたが、技能検定1級を受検したのは、どのような理由によるものですか。
 下の項目から該当するものを三つ選び○印をつけて下さい。

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工
	自 営 者 N=99×3	被 雇 用 者 N=40×3	N=342×3
1. 勤め先きで受検をすすめられたから	0.3	10.8	17.0
2. 職場の多くの人が合格していたから	1.7	1.7	5.1
3. なんとなく安心するから	14.8	10.0	8.8
4. 経済的な特典があるから	1.3	2.5	2.0
5. 昇進等に有利になるから			4.4
6. 離転職に有利になるから	2.0	6.7	6.4
7. 独立自営がしやすくなるから	9.1	10.0	0.6
8. 職場で ハク がつくから	1.7	1.7	3.4
9. 勉強にもなり、実力をたしかめられるから	28.3	27.5	24.5
10. 希望の仕事に就きやすくするため	0.3	0.8	0.5
11. 2級に合格していたから	3.0	1.7	4.4
12. ただなんとなく	3.7	1.7	1.8
13. その他	5.8	0.8	2.1
NA	28.0	24.1	19.0
計	100.0	100.0	100.0

Q 3 あなたの会社（あるいは、お店）では、従業員に対して技能検定を受検することをすすめていますか。一つだけ○印をつけて下さい。

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工
	自 営 者 N=99	被 雇 用 者 N=40	N=342
1. 積極的にすすめている	33.3	35.0	42.7
2. すすめている	26.3	25.0	45.6
3. とくにすすめていない	17.2	40.0	10.2
4. 受検は望ましくないといっている			0.6
5. わからない	8.1		0.6
NA	15.1		0.3
計	100.0	100.0	100.0

Q 4 あなたの会社（お店）が従業員に対して、技能検定を受検するようにすすめているもっとも強い理由はなんだと思いますか。一つだけ○印をつけて下さい。

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工
	自 営 者 N=59	被 雇 用 者 N=24	N=304
1. 士気を高めるため	25.4	8.3	13.8
2. 合格者は経済的に優遇されるため			4.9
3. 製品のバラツキをなくすため	13.6	12.5	8.2
4. 会社の評価、イメージを高めるため	5.1	20.8	17.4
5. 人事、労務管理上の資料にするため	1.7		1.3
6. 業務遂行上、合格者を必要とするため		4.2	2.3
7. 技能レベルの向上をはかるため	47.4	54.2	49.4
8. 労組からの要求に対処するため			
9. その他	3.4		1.0
10. わからない	1.7		0.7
NA	1.7		1.0
計	100.0	100.0	100.0

Q 5 あなたの会社（お店）では、従業員が技能検定を受検する場合、何らかの援助をしてくれますか。一つだけ○印をつけて下さい。

%

項目	対象者		時計修理	機械加工
	自営者	被雇用者 N=40		N=342
1. 援助がある	X	X	62.5	86.0
2. 援助はない			35.0	13.7
NA			2.5	0.3
計			100.0	100.0

Q 6 あなたの会社（お店）でしてくれる援助とはどのような内容のものですか。該当するものにもいくつでも○印をつけて下さい。なお、下の項目の3から6に○印をつけた人は、()内の合格の場合だけ、不合格の場合でものいずれかにも○印をつけて下さい。

MA(×自由)%

項目	対象者		時計修理	機械加工	
	自営者	被雇用者 N=67		N=554件	
10. 職場での訓練、勉強会の開催	X	X	6.0	39.0	
20. 職場外の訓練、勉強会への参加			22.4	4.0	
30. 受検日が平日の場合でも出勤あつかい			14.9	2.7	
31. 同上(合格の場合のみ)			3.0	0.2	
32. 同上(不合格の場合でも)			6.0	4.9	
40. 受検日が休日の場合でも出勤あつかい			6.0	2.5	
41. 同上(合格の場合のみ)			1.5	0.2	
42. 同上(不合格の場合でも)			4.5	3.1	
50. 交通費、宿泊費の援助			8.9	2.3	
51. 同上(合格の場合のみ)				0.2	
52. 同上(不合格の場合でも)			4.5	5.9	
60. 受検料の援助			8.9	7.9	
61. 同上(合格の場合のみ)			4.5	7.6	
62. 同上(不合格の場合でも)			8.9	14.1	
70. その他				5.0	
80. わからない				0.4	
計				100.0	100.0

Q 7. あなたは、技能検定を受検するにあたって会社（お店）が受検料を援助することについてどう思いますか。一つだけ○印をつけて下さい。

%

項目	対象者		機械加工 N=342
	時計修理 自営者	時計修理 被雇用者 N=40	
1. 援助をしてほしい	X	70.0	70.7
2. 援助をしてくれなくともよい		30.0	27.5
3. わからない			1.2
NA			0.6
計			100.0

Q 8. あなたは、技能検定1級を受検にさいし、自分の技能や知識を高めるための特別の訓練や勉強会等について会社（お店）からの援助の必要性を感じましたか。一つだけ○印をつけて下さい。

%

項目	対象者		機械加工 N=342
	時計修理 自営者	時計修理 被雇用者 N=40	
1. 非常に感じた	X	45.0	42.7
2. 少し感じた		20.0	29.8
3. あまり感じなかつた		20.0	21.3
4. まったく感じなかつた		15.0	5.6
5. わからない			0.3
NA			0.3
計		100.0	100.0

Q 9. あなたが必要を感じる特別の訓練や勉強会は、どのようなやりかたがもっとも効果的だと思いますか。その方法が可能であるか否かは別にして、一つだけ○印をつけて下さい。

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工 N=248
	自 営 者	被 雇 用 者 N=26	
1. 個人、グループの勉強会等への教材(費)援助		7.7	3 5.9
2. 会社の行う勉強会等への参加		1 9.2	4 7.2
3. 社外の講習会、研修会への参加		6 1.6	1 0.5
4. 公共の訓練校、技能センターへの入校		1 1.5	5.2
5. その他			0.8
6. わからない NA			0.4
計		1 0 0.0	1 0 0.0

Q 1 0. あなたは、技能検定1級に合格していることをあなた自身にとって、どのように役立たせることができればよいとお考えですか。下の項目から該当するものを三つ選んで○印をつけて下さい。

MA (× 3) %

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工
	自 営 者 N=99×3	被 雇 用 者 N=40×3	N=342×3
1. 地位上昇に結びつくこと		1.7	5.8
2. 経済的特典に結びつくこと	0.7	10.0	11.1
3. 希望の仕事につきやすくなること	0.3	1.7	1.6
4. 再就職に有利になること	2.0	5.8	9.6
5. 独立自営がしやすくなること	12.8	10.8	1.2
6. 学歴と同等に評価されること	11.4	10.0	15.6
7. 仕事にはりあいがもてるようになること	10.8	9.2	9.5
8. 自分の実力が確認できること	21.6	18.3	18.9
9. 実力が認められること(職場で)	1.3	4.2	4.8
10. 仕事と実力が認められること(社会一般で)	18.5	11.7	7.9
11. その他	0.7		1.5
NA	19.9	16.6	12.5
計	100.0	100.0	100.0

Q 11. あなたは、技能検定のほかに、もし、あなたの仕事に関係があると思われる資格があれば、それも取得したいと思いますか。

%

項 目	対 象 者		機械加工 N=342
	時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない	5.1	5.0	2.3
2. あまりそう思わない	6.1	10.0	9.6
3. なんともいえない	11.1	7.5	13.5
4. 大体その通りと思う	25.2	17.5	25.1
5. まったくそのとうりと思う	49.5	60.0	48.0
NA	3.0		1.5
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.99	4.18	4.02
SD	1.34	1.22	1.20

Q 12. あなたはいろいろなことを考えあわせると、できれば上級の学校に進学しておいたほうがよかったですか。

%

項 目	対 象 者		機械加工 N=342
	時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない	12.1	7.5	1.8
2. あまりそう思わない	21.2	12.5	8.2
3. なんともいえない	11.1	15.0	9.3
4. 大体その通りと思う	12.1	12.5	16.4
5. まったくそのとうりと思う	41.5	52.5	64.0
NA	2.0		0.3
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.43	3.90	4.32
SD	1.57	1.36	1.08

Q 13. あなたは、技能検定は、その免許職種に関する技能、知識だけにとどまらず、他の職種の技能、知識を高めるためにも役立ったと思いますか。

%

項 目	対 象 者		機械加工 N=342
	時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない	4.0	2.5	2.3
2. あまりそう思わない	19.2	12.5	5.9
3. なんともいえない	16.2	22.5	10.5
4. 大体そのとうりと思う	27.3	17.5	41.2
5. まったくそのとうりと思う	31.3	45.0	39.8
NA	2.0		0.3
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.57	3.90	4.09
SD	1.32	1.18	0.99

Q 14. あなたは、技能検定に合格していることが、あなたの現在の人生にプラスになっていると思いますか。

%

項 目	対 象 者		機械加工 N=342
	時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない	7.1	2.5	6.4
2. あまりそう思わない	6.1	15.0	12.0
3. なんともいえない	11.1	7.5	15.5
4. 大体そのとうりと思う	32.3	40.0	38.9
5. まったくそのとうりと思う	43.4	35.0	27.2
NA			
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.99	3.90	3.68
SD	1.19	1.11	1.18

Q 15. あなたは、技能検定に合格していることが、あなたのこれからの人生にプラスになると思えますか。 %

対象者 項目	時 計	修 理	機械加工 N=342
	自営者 N=99	被雇用者 N=40	
1. 全然そう思わない	9.1	5.0	5.0
2. あまりそう思わない	12.1	15.0	10.8
3. なんともいえない	14.1	27.5	24.3
4. 大体そのとうりと思う	27.3	15.0	37.7
5. まったくそのとうりと思う	36.4	37.5	21.9
NA	1.0		0.3
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.67	3.65	3.60
SD	1.36	1.26	1.11

Q 16. あなたは、技能検定に合格したことを、仕事の仲間に対して誇りに思っていますか。 %

対象者 項目	時 計	修 理	機械加工 N=342
	自営者 N=99	被雇用者 N=40	
1. 全然そう思わない	7.1	17.5	10.5
2. あまりそう思わない	16.2	17.5	22.8
3. なんともいえない	18.2	12.5	20.2
4. 大体そのとうりと思う	23.2	20.0	27.8
5. まったくそのとうりと思う	34.3	30.0	18.4
NA	1.0	2.5	0.3
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.59	3.20	3.20
SD	1.34	1.57	1.29

Q 17. あなたは、技能検定に合格していることを、職場以外の社会一般の人に対して誇りに思っていますか。

対象者 項目	%		
	時計 自営者 N=99	修理 被雇用者 N=40	機械加工 N=342
1. 全然そう思わない	8.1	15.0	12.6
2. あまりそう思わない	15.1	22.5	13.3
3. なんともいえない	18.2	12.5	27.5
4. 大体そのとうりと思う	26.3	20.0	23.1
5. まったくそのとうりと思う	32.3	30.0	15.2
NA			0.3
計	100.0	100.0	100.0
MEAN	3.60	3.28	3.06
SD	1.29	1.47	1.26

Q 18. あなたは、技能検定に合格していると、離職しても新しい職場へ就職が容易になるとお思いますか。

対象者 項目	%		
	時計 自営者	修理 被雇用者 N=40	機械加工 N=342
1. 全然そう思わない		7.5	8.2
2. あまりそう思わない		12.5	15.5
3. なんともいえない		20.0	30.1
4. 大体そのとうりと思う		35.0	32.2
5. まったくそのとうりと思う		25.0	13.7
NA			0.3
計		100.0	100.0
MEAN		3.58	3.27
SD		1.20	1.14

Q 19. あなたは、技能検定に合格したことによって、班長や職長、あるいは、もつと上の管理的な立場はなりやすくなったと思いますか。

%

対象者 項目	時 計 修 理		機 械 加 工 N=342
	自 営 者	被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない		2 2.5	2 0.8
2. あまりそう思わない		2 7.5	2 5.7
3. なんともいえない		2 7.5	2 9.5
4. 大体そのとうりと思う		1 2.5	1 5.8
5. まったくそのとうりと思う		7.5	5.6
NA		2.5	2.6
計		1 0 0.0	1 0 0.0
MEAN		2.48	2.52
SD		1.25	1.21

Q 20. あなたは、技能検定に合格していることに対して、それにみあう賃金や手当を要求したほうがよいと思いますか。

%

対象者 項目	時 計 修 理		機 械 加 工 N = 3 4 2
	自 営 者	被 雇 用 者 N = 4 0	
1. 全然そう思わない		5.0	5.3
2. あまりそう思わない		7.5	1 2.0
3. なんともいえない		1 0.0	2 3.1
4. 大体そのとうりと思う		3 7.5	3 3.6
5. まったくそのとうりと思う		4 0.0	2 5.7
NA			0.3
計		1 0 0.0	1 0 0.0
MEAN		4.00	3.62
SD		1.12	1.16

Q 21 あなたは、現在の賃金体系の主流をなしている年功序列的な賃金体系は、よいことだと思いますか。

%

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工 N=342
	自 営 者	被 雇 用 者 N=40	
1. 全然そう思わない		17.5	10.8
2. あまりそう思わない		32.5	23.1
3. なんともいえない		22.5	34.8
4. 大体そのとうりと思う		15.0	26.0
5. まったくそのとうりと思う		7.5	5.0
NA		5.0	0.3
計		100.0	100.0
MEAN		2.48	2.90
SD		1.28	1.07

Q 22 あなたの年齢はいくつですか（51年3月31日現在）。一つだけ○印をつけて下さい。

%

対 象 者 項 目	時 計 修 理		機 械 加 工 N=342
	自 営 者 N=99	被 雇 用 者 N=40	
1. 18才以下			
2. 19～22才			
3. 23～27才			4.4
4. 28～35才	3.0	7.5	36.5
5. 36～40才	11.1	20.0	15.8
6. 41～45才	22.2	27.5	8.5
7. 46才以上	57.6	45.0	34.5
NA	6.1		0.3
計	100.0	100.0	100.0

Q 2 3. 働く者としてのあなたの立場はどれですか。一つだけ○印をつけて下さい。

項 目	対 象 者	
	時計修理	機械加工
1. 自 営 者	7 1.2	
2. 被 雇 用 者	2 8.8	1 0 0.0
計	1 0 0.0	1 0 0.0

Q 2 4. あなたが現在、主として従事している仕事はどれですか。一つだけ○印をつけて下さい。

項 目	対 象 者		機 械 加 工
	時 計 修 理 自 営 者 N=99	被 雇 用 者 N=40	N=342
1. 事 務 系	1.0		2.0
2. 技 能 系	32.3	57.5	85.7
3. 技 術 系	1.0	2.5	1.2
4. 研 究 開 発 系			2.0
5. 営 業 系	54.6	30.0	0.6
6. 教 育 訓 練 系	2.0	2.5	2.9
7. そ の 他	5.1	5.0	4.4
NA	4.0	2.5	1.2
計	100.0	100.0	100.0

Q 2 5. あなたが、いま勤務している、あるいは自営している会社（お店）の従業員数（全社的人数）はどれくらいですか。一つだけ○印をつけて下さい。

対 象 者				%
		時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	機 械 加 工 N=342
項 目				
1. 4人以下	82.9	30.0		
2. 5人～29人	13.1	50.0	0.9	
3. 30～99	1.0	5.0	3.5	
4. 100～499		2.5	5.6	
5. 500～999		5.0	7.9	
6. 1,000～4,999		2.5	21.9	
7. 5,000人以上			59.9	
8. 官公庁 NA	3.0	2.5	0.3	
計	100.0	100.0	100.0	

Q 2 6. あなたは、いまの会社（お店）に勤める前に、他の会社（お店）に勤めたり自営したことがありますか。

対 象 者				%
		時 計 自 営 者 N=99	修 理 被 雇 用 者 N=40	機 械 加 工 N=342
項 目				
1. な い	21.2	12.5	46.2	
2. 一回ある	30.3	37.5	20.7	
3. 二回ある	16.2	10.0	12.6	
4. 三回ある	9.1	20.0	10.2	
5. 四回ある	2.0	17.5	5.0	
6. そ の 他 NA	2.0	2.5	5.0	
計	100.0	100.0	100.0	

自由記述部分の転記

- ☒ 記述の一覧のうち、個人ごとの記述に☆印をつけ、かつ、個人ごとの記述のうち、内容的に異なった記述には・印をつけてある。
- ☒ 記述末尾の記号（例…… A 1、 B 1 ）は表18の分類による。
- ☒ 文章は原則として、原文のままを転記してある。

時計修理（自営者）グループ

- ☆ ・ 技能者としての効果は現社会的あるいは現職場では効果なし。だから技能検定を受ける必要なし。とくに時計業界においては昔ながらの考え方が強いので技術、技能を身につけても、自分に対してプラスにならない。 A 2、A 3
- ☆ ・ 技能検定の内容は、この位でよく余りむつかしくすると、かえってよい結果は出ないよう
に考えます（問題、仕事はやさしいが、合格しそうで仲々合格しない。もう一寸かなと思
わせ引っぱっていくコツがよいと考えます。） B 1
- ・ 社会的効果 — 一般社会にも知って頂きたい。 D 2
- ・ 試験をいわばたたき台にして、各組合等に於て研修、講習会を数多く開き、時計に関する
工学的知識を十分に講習させることが時修工にもっとも必要と存じます。 E 3
- ☆ ・ 労働大臣が出す1級技能士証ならば、もう少し権威のあるものにしてほしい。 A 3
- ☆ ・ 技能士に対し、新しい技能の知識等に関する講習会、その他資料を積極的に提供してほし
いと思います。 E 3
- ☆ ・ 技能検定は今後も益々盛んにするべきであるが、内容はどこまでも実社会に適応したも
でなくてはならない。唯、試験だけが浮き上がったものにならないよう、常に実社会に即応
し、且つ又、専門的な技能、知識を深めるために役立つような問題を当事者は考えるべき
である。そのためには、地域的な勉強会、講習会を適当に開き、専門的知識技能の習得に
意欲を燃やすようにするべきである。 B 4 E 3
- ☆ ・ 技能検定は、新製品ができ、機械がかわるので役立たないと思う。 B 4
- ☆ ・ 技能検定については技術の向上、自分の仕事についのが自覚、誇りをもつということに意
義があります。しかし、私が取得して10年近く、1級技能検定に挑戦しようとするもの
がなかなか現われない現状である。それは何故か、理容師、美容師のようになくても商売
ができるということ、資格がなくても売りさえすればよいという風潮、これが非常に強い。
特に大型店やテナントに関係する人達の考え方を変えなければならない。この状態を改善
して、責任ある販売、修理をするようにならなければ、我々の業界の発展はないと考えま
す。 A 6
- ☆ ・ 時計業界にあつては、これから先、技能は不要となるようで、販売に徹しなければ生き残
れない（少しはメカについての説明には役立つが） E 4
- ☆ ・ 有資格者が一般から価値を認められる社会を望む。 A 3
- ・ 受験資格に経験年数は？ 不満。 C 3
- ☆ ・ 技能検定とは、社会的に余りに認めてはいないようです。 A 3
- ☆ ・ 時計修理工は社会からあまり認められておりませんので、個人の誇りとは思いません。 A 3
- ・ 今の社会には、国家試験が種々ありますが、時計修理工の場合は営業にはプラスにはなり
ません。 A 6
- ☆ ・ 試験制度大いに結構です。内容においては、時代に応じた電子式を大いに取り入れること D 1、B 4

- ☆ • 時計業界の現在一級技能者に対して、他の業界では免許がなければ営業できないのに時計業界では免許がなくても営業できるのは不満である。今後は、国家検定合格者のみ営業できる制度をお願いしたいと思います。 A 6
- 今後は、免許のない者は自発的に国家検定を受検されることを望みます。 D 1
- ☆ • 一般社会において一級技能検定資格をもっても格差がない。ある程度の有資格者に対して、特典なり何かの差別があってもよいと思う。 A 3
- 現在のスピード社会においては試験よりも新製品開発のほうがはるかに進んでおり、例えば、試験に出てくる基礎的な知識だけではとても追いついてゆけない。現在に即した勉強がより一層望ましいと思います。 E 3
- ☆ • 出来れば現在よりもっとむつかしいとよいと思います。少しの勉強では合格できない位に。 B 1
- ☆ • 電子時計、クォーツ時代の倒来とともに、こういう時計の検定も必要になってくるのではないかと考えています。 B 4
- ☆ • 現在の試験制度については必要であると考えている。特に私達の年齢層は、系統的に勉強していませんので、其の点、試験制度によって教育を受けることが出来（通信教育による）てまことによかったと思っている。 D 1
- 今後については、機械的のみでなく、電気的な面、則ち、理論的な教育が是非必要と考える。私は幸にして軍隊当時に軍の学校で教育されたので、若干は安心はしているが、現在の状況では不足しているように思われる。時計も水唱発振器を用い集積回路の使用等、非常に進んでいる現状ですので、其の点、ご留意願いたい。 B 4
- ☆ • 技能検定について、あらかじめ準備訓練をしてもらいたい。会社、店ではなく一定の場所近くにて実施して結集をしたいと思う。 E 3
- 一級技能の区別が大差ない。実施方法が同じである。 B 4
- ☆ • 自営者には時計修理1級などあまり役に立っていません。 A 6
- ☆ • 現在自営しておりますが、1級～2級等に合格している者も、合格していない者も営業面に何の差もない。又、店員として勤務する場合もあまり関係ないようです。以上の関係上若い人は受験に熱が入らないのが実状です。 A 6
- ☆ • 国家技能検定（時計1級、2級修理工）は他の職種の技能検定中、少し厳かくすぎると思っています。1級の場合は、一日の誤差が \pm 10秒以内とか、しかも時間も短かいし、他業種の検定にくらべて厳かくすぎると思う。これは最近、小生、時計技能検定の検定委員を委嘱されて痛感しました。 B 1
- ☆ • 技能習得は、個人の現在、未来を通して利益になることと思うが、現在の日本の状態の中では、社会的地位が低いものに思考されがちである。其のタメ、技能検定合格が一つの自己満足という線で終り勝ちになることを残念に思う。この時点から、私をふくめて吾々は再思考すべき時期に来ている。技能者の地位の向上を願い、社会に要求し、このことの運動を起すべきである。 A 3
- ☆ • これからの技能向上のためにも試験制度は是非必要と思いますが、2級の度合は今少々簡 B 1

単にしてやってほしい。現在（これから）の受検者は大抵、自営者の長男若しくは後取りの方が多と思います。従って、2級年限までに今年の試験問題及び作業内容は1級合格者を見た場合、大変むつかしいように思われました。ほとんど前者1級の試験内容と大差なかったように思われました。

- ☆ ・ 技能試験不合格の場合の悪い点を知らせてもらいたい。学科試験の回答を知らせてほしい。今後の勉強に役立つ。 C 5
- ☆ ・ 自営者にとっては資格はほとんどプラスになつていない。 A 6
- ☆ ・ 試験内容に問題あり。1級の上に更に上級の試験があるべきなり。 B 4, D 3
 - ・ 現在の1級資格に何の利がありましようや。結果として自分一人で研究して自己満足の昔に戻ることが惜しい。其の結果、メーカーに馬鹿にされるのが現在の時計界なり。 A 3
 - ・ 新しい技術を各人が勉強する以外ないか？。技能検定の内容を改めたほうがよいかと思えます。 B 4
- ☆ ・ 現在は1級を取得しても何の恩典もないので、外国なみに技能者の社会的地位の高揚に努力していただきたいと思えます。 A 3
- ☆ ・ 技能検定合格者の地域ごとの横のつながりを作ってもらいたい（地域技能士みたいなものを）。 E 4
- ☆ ・ 上級の技能検定（とてもむつかしい）ものを作ってもらいたい。 D 3
- ☆ ・ 現在の所では、余り意味ないと思えます。理由は
 - 1. 1級に合格している否とにかかわらず、修理料金は同じである。 A 6
 - 2. 1級、2級の免許の有無にかかわらず、自由に営業ができる A 6
 - 3. 科学の進歩による驚意的な時計工業の発展はとどまるどころを知らず。水晶、液晶等亦近くは太陽時計の出現さえ間近と噂される今日、何をもって子弟に技能検定を強くいえましようや。 B 4
- ☆ ・ 私の職種の時計修理技能士の検定は、最近若い人達の受検者の合格率が大変低いと聞いています。他の職種の場合はわかりませんが、この職種の場合永年の実績と職業の忍耐が必要です。その為若い後継者が少ない現況に将来に憂えることです。受検者の少ないことと安直に受検する為、不合格率の低下の現況をなんとか改善できればと思えます。 E 4

時計修理（被雇用者）グループ

- ☆ ・ 技能検定が非常に高度の技術を要しむつかしい。合格率も20%位と聞いているが大賛成。 B 1
 - ・ メガネの試験がないのは不満。 D 4
- ☆ ・ 年によって内容がちがいきすぎる。 B 4
- ☆ ・ 余り希望はありませんが、一級技能士の資格があっても事業所はあまり反きようをもたず A 2
 - ・ 当り前の如くに思っている点が不可解である。
 - ・ でも個人的に認められたのであるから自己満足。そして自身の技術に誇りをもって毎日毎日 A 9
 - を過していることが人生の最大のよろこびと 생각합니다。
 - ・ 2. 1級のバッチについて、あまり大きすぎます。現在の実物の(技)のみを採用して E 4
 - 周囲は不必要と思います。私個人として、周囲のみけづりましたら大変つましくなりました。毎日毎日着用しています。
- ☆ ・ 技能工に対する社会的賃金評価が低くすぎる。1級、2級技能取得者に対する最低賃金制 A 1
 - 度を設けるよう願う。
 - ・ 技術指導はメーカーだけでなく、地方公共機関がやって欲しい。 E 3
- ☆ ・ もう少しPRをして、例えば私共の時計業界ではお客と経営者側も技能者にはあまり評価 D 2
 - をしないようです。一部経営者はかなり評価をしてくれます。特に一般の方々（お客様）には全然わからないようです。
- ☆ ・ 2級技能検定に合格されたかたたちには、翌年より1級技能検定受検資格をあたえていた C 3
 - だきたいと思います。
- ☆ ・ 電子又はクォーツ等機械時計からI C時代にかわろうとしているのに、メーカー業界等、 E 3
 - 少しも研修や講習会などもしないでただ売り込みに必死でなにしないにひとしいと思っています。メーカー、業界に呼びかけてもう少し勉強すべきだと思う。
- ☆ ・ 技能検定受検資格、2級5年、1級10年の実務経験があるものとされていますが誰にでも C 3
 - も自信ある人には経験年数に関係なく受検の場を与えるべきだと思う。
 - ・ 日本の技術社会では、ただ一人の労働力としかみなされず残念に思います。技能、能力に A 2
 - よって賃金を払うべきです。
- ☆ ・ 時々研修会、講習会を開催されることを希望します。 E 3
- ☆ ・ 技能検定に合格しても何の意味もありません。私の会社では昇給手当はなにもありません。 A 2
 - 今後、若い人達が資格取得されることと思いますが、合格者に対する何らかの方法を真剣になって考えてほしい。
- ☆ ・ 検定に合格しても勤務先、社会とも何もかわらない。合格証もただの紙切れ同然です。検 A 2, A 3
 - 定が価値あるものになる様望みます。
- ☆ ・ 業界の情報及び技能士間の横の連絡がない。小売店の経営者までは業界の情報が流れるが E 3
 - 末端までは流れ難い。技術者は技術のみの勉強だけでなく、時計業界の時の流れなども速やかに把握しておかなければ現代のように、技術の進歩の速い時代には遅れをとってしま

う。その為に、総合的な情報を流せる大きな組織が欲しいと思う。

- ☆ • 技能検定合格者の身分等をもっとはっきりさせるよう、会社等に啓蒙を活発にしていきたい。 A 2

機械加工グループ

- ☆ ・ 社会的効果として、私の会社では(大企業ですが)学歴優先であり、技能者は道具にすぎないという考えが、とくに事務、技術職に多い。とくに作業にたずさわらない人は過小評価しがちである。 A 2
- ・ これからの時代は、技能の一定の資格をもち、他の一般知識、理論を多くもち、又、管理者能力をもつ人がリーダーである。 E 4
- ☆ ・ 自分が技能検定を受けた時のように、きびしくしてほしいと思う。今は、技能の内容が落ちたと思う。 B 1
- ☆ ・ 企業、又は県では技能検定を受けるようすすめるが、それに対し社会一般では、技能士に対する社会的地位評価はまだ工員というイメージから脱することは出来ていない。 A 3
- ・ 技能検定は合格したが、実作業のほうは全然ダメという人が多い(試験問題のみ練習していれば合格する)。この点、技能検定に合格したというだけでの評価でよいものか(これは社内的な問題点でもあると思う)。 A 3
- ☆ ・ 毎年、実技の課題の発表が遅い。もっと早くしてほしい。 B 1
- ・ 又、年1回を2回にしたらどうか。 C 4
- ☆ ・ 自分達の受験した時は第1回目の制度で、一級に合格したら給料は全国的に同じだという「うわさ」があった時代でしたが、そういう制度はなく、がっかりした。 A 1
- ・ 今は制度も定着し、若い人達は二級に合格しておりますが、一級、二級に合格したら、同じ職種の場合は会社間の差をなくす方向にもっていくべきではないか。 A 1
- ☆ ・ 常時、機械加工していないで、資格をとるだけのために検定を受ける人あり、ちょっとへんですね。 E 4
- ☆ ・ 職業訓練法の目的が職場の一部の人は知っていますが、大部分の人は知っていないので、会社の上司の方が積極的に受検するよう進め、なんらかの援助をすることにすれば、従業員の士気が高まると思う。 D 2
- ・ 賃金体系が資格取得者を優遇するようになっていない。例えば、作業の配置、昇進等。 A 2
- ☆ ・ 社会的効果 ——やはり一級技能検定に合格すること、自分なりに自覚をするので最終的には技能検定合格者がふえてくると技能のレベルアップに自然となってくる。 A 1 0
- ・ 現実の問題として、技能検定の実施の合格率は高いけど、学科の合格率はかなり低い。これは、工具なり機械が発達しても、これを有効につかえきれないと思う。技能検定の合格者は一般的に中卒、高卒、訓卒が多い。これは現場で仕事をしているのが、みんな中卒、高卒、訓卒が多いからである。これからは、一級技能検定合格者を対象に3ヶ月～6ヶ月位の期間で、会社の補助で職業訓練大学校で学科を重点的に教育する制度を設置してほしい。 E 3
- ☆ ・ 社会的にも社内においても、本人の技能が認められ、職業に対する愛着が生れるので、よい制度だと思います。 D 1

- 当社では1級合格者は上級昇格の第一条件としているので、若年者も合格に熱意を燃している。 A 2
- 私の職場に来た資格取得者(社外)でも、その後の研鑽の有無により、入った職場の人より大分劣る事例を見ているので、取得者はその会社で指導性を発揮して生かした方が、受験させてくれた会社の為にもなる。 E 4
- ☆ • 会社はもう少し、合格者に対して技能というものを認めてくれたらと思う。 A 2
- ☆ • 今年まであった訓練校の卒業生は、当社でも今まで多く入社してきたが、これらの人は入校中に2級の資格をとっている。そのための時間や練習などを多くみてやったけれど、2級にとまらぬ日常の作業が出来ない者が多くあった。試験だけにとどまる者が最近多いように思う。資格などなくとも日常の作業がどのように出来るか、資格が泣くようなカンパンではこまるようにも思う。 A 7
- ☆ • 技能検定制度に対する認識を社会的に更に高めてほしい。 D 2
- ☆ • 現在の不平等と思われる学歴社会に、せめて技能検定の受検資格だけでも学歴による資格年数を平等に出来たら、より受検意欲も出るのではないかと考える。 C 3
- 技能士という資格の認識を、今少し世の中、特に企業にもたせるよう、ご努力を願いたい。 D 2
- ☆ • 事業場で行われる実技の試験に合格しても人に誇れる程の感激がない。いつも使いなれた機械で、完璧に加工された試験の粗材で受験し合格しても、世の中に横行している資格免許はこのようなものばかりだと思い、自分も1級をもっているのに誇れないし、他の分野でも同様と思い、免許証をみても、あゝやっているなど感じる程度の免許と思う。 A 3
- ☆ • 技能検定の資格を学歴位に重要視してもらいたい。会社によって職種にもよるが技能を重視している会社と、していない会社がある。何かの基準になるようにきめてもらいたい。(手当、処遇、特典等) A 1
- ☆ • より一層の技能検定制度の拡充と、一般の人々がこの制度に認識を高める方向に進めていただきたいと思います。 A 3
- ☆ • 技能検定1級の上に特級があってもよいのではないですか。一級程度では一般的すぎる。 D 3
- 検定に関心はない人でも、日常の仕事を効果よくこなす者の対策が欲しいので、検定合格のレツテルのみに終らせたくないと思う。 E 4
- ☆ • 検定内容は広範囲に、より自分の希望する科目が受検できるのは結構で、機械加工の科目をみても、広範囲のため勉強も多く、本人の負担も多く、減点方式により一そう大変と思う。 B 4
- 現在の制度は会社のイメージアップに利用している感じを受け、技能オリンピックもプロ化されているように感じ、合格によって身分の保証、待遇等が認められるようにならなければ、受検の意識が起きる割合も少ないと思う。学科はともかく、現在会社は、標準作業専用機、NCマシン等、自分の思考で作業するのと異なり、受検の予備訓練が思うように出来ず、このような状態が一番苦勞の種です。
- 1. 企業のイメージアップに利用している感じ A 8

- 2. 受検者の魅力的な条件が少ない A 5
- 3. 合格者の身分保証、待遇等、現在では社会的にあまり認められず効果があがらない。 A 2
- 4. 社会全体が学歴上位で昇格、昇進、賃金等にはねかえってこない A 2
- 今後の問題として合格者には社会的待遇が身にしみて感じるような、はねかえりが必要と思われます。 A 5
- ☆ • 自分自身に対して自信をもつことが出来、有形無形のかたちで自分自信に対してプラスになつています。仕事に対する自信の支えとしてでも、又、希望をもった生活ができるようになり、サラリーマン生活に生きがいを感じるようになりました。 A 9
- ただ、資格を取得したといってもすべての面にわたって、技能面が十分であるという事はあり得る事ではありませんが、持っている資格を少しでも汚す事はしたくないという意識が芽ばえ、努力する気になったという事は自分自信大きな収穫だと深く感謝しております。 A 9
- 又、人間はある程度競争意識を持つことは進歩の母であることの面を私は強張りたいと思います。その意味においても、私はこの技能検定はこれからの技術革新にとって最も適した方法であり、重要な仕事であると確信しております。 D 1
- ☆ • 学科試験で減点法に問題がある。自分の知っているものでも別の問題????????? 実際には知っていないと同じように減点されていってしまうということは理解できない。テスト方法を一考してほしい。 B 5
- ☆ • 技能検定制度は私にとって何一つ役に立ったものはない。国の定めた制度でこんな能のないものはめずらしい。現在、私の勤めている会社はこんな制度があつたとは?で話にならない。少なくとも、機械のある会社には公報で知らせるべきだ。 D 2
- 技能制度、及び雇用者数に応じて検定合格者の使用を必ず義務づける方法をとるべきだ。 E 4
- ☆ • 実技試験は事業場で行っているが、立会に必ず県又は国の人を入れた会場で行って下さい。 C 1
- ☆ • 定年後の再就職に高年齢者は非常に不利な現状であるが、有資格者には技能を発揮できるような配慮が必要であります。 A 1
- ☆ • 実技試験は3年一度程度内容を変えたほうがよい。 B 6
- ☆ • フライス加工、シェーパー加工の材料について、上下面、側面が溶断、黒皮、寸法に切削したものか、明記されていない。事業所内の検定を行う場合、作業のやりやすさ、やりくさが材料によって異なる。毎年検定委員として苦しんでいる。 B 6
- ☆ • 各事業所では技能検定制度を大きくとりあげ、社員自から受験を進んで行うよう啓蒙運動を積極的に展開し、自己の技能向上に役立つべきであると思います。 D 2
- ☆ • 受検料が年々高くなりすぎる。 D 6
- 毎年、実技試験の内容を変えたほうが、実力的効果が上るのではないか。 B 6
- 試験結果の発表がおそい。 C 5
- ☆ • いくら多様化した世相とはいえ、自己の職業意識に徹することは非常に大切であると考え D 2

ています。高度成長をした今まではともかくとして、今後は徹底した職業意識の高揚を要求されるのは社会の必然と考えられます。その意味において当局は大、中、小を問わず、その働きかけをして頂きたいと思います。

- 若い世代は余りに多様化した現状で自己の進むべき道、亦責任を見失っているように思われてなりません。事業家も亦営利のみを追求する感なきにしもあらずです。次の世代を背負う若い世代に勇気と価値ある人生を送ってもらうためにもその一つの門として有意義な技能検定を実施して下さるよう願ってやみません。 D 1
- ☆ • 技術の革新に伴い機械構造も一段と近代化、複雑多様化し、専門的になってきている。従って、今後増々、高度な技能士を必要になってくると思う。そのためにも国、県あるいは各事業所においてより積極的な援助を切望する。 D 1
- 亦、技能士合格者には社会一般が学歴をもっていると同様な評価をもって迎えてくれることを望みたい。現在、自分の会社をみても技能士だからといって特に認められ、高く技能を評価されていない。この点、残念である。ある程度、会社よりの恩典が約束されれば技能士受験者は増加の一途をたどるだろう。 A 2
- 今後の、私の希望、100人の機械職場であったら、50人を技能士有資格にしたい。そうすることにより、品質の維持向上が確保され、品質上のトラブルは殆んど解消できる。 A 1 0
- ☆ • 1級技能検定の学科試験は非常にむづかしく合格する率が少ないので、実技試験を受かり学科を落ちた場合、実費でも訓練指導員の講習を受け、その試験に合格した方がやさしく、自動的に1級技能士とすることができる。それでは、まじめに学科に取り組んで合格した者が馬鹿をみかねない。改善を望む。 C 2
- ☆ • 1級学科試験について、通信教育にて合格できるような道があればと思う。 D 5
- 技能検定に合格しても最近あまり評価の対象とされていないが、少し位考えてもらうような制度であってほしい(意欲づけにもなる)。 A 2
- ☆ • 現在の若い者は賃金に仕事を割りきって仕事をしているように思える。たとえば技能検定に合格すれば給料が上がるのかとか、上らなければ給料だけの仕事しかしないようだ。 A 2
- 国検を受ける者に対して受検料が高すぎるので、安く受検できるようにすれば受検も多くなると思う。現在、会社も不況のため援助金が出せないで受検者が少なくなっている。 D 6
- ☆ • 受検は好きの方ではなかったが、自分自身の勉強になり、外の仕事にも役立つことが多くよかったと思う。 A 9
- ☆ • 試験制度を充実して学歴は学歴として尊重すると同時に、技能は技能として尊重できるような社会にして欲しい。そうなることによって、底辺の広いしっかりした日本の国ができる。技能者として技能に誇りがもてるということは、何より幸せなことだと思う。故に単なる試験制度(国勢調査的な)では無意味である。技能検定を価値ある制度になるよう努力を望みます。 A 3
- ☆ • 今後益々拡大していくことを望みます。 D 1
- ☆ • 学科試験については従来どうりでもよいと思いますが、実技については職種別の????

材料等費用がかかるので、今後は次のように改善してはどうか

1. 訓練所から実技基準を各工場に送付して、その基準に合格すれば特定の実技を受けず免除とする。 C 1
 2. 免除判定は工場の上司が実技基準に基き、一年間中の適当の加工品（製品）を摘出し行ない、免除申請を行う（中ぐり盤等材料が高価） C 1
- 私共の会社では、年一回技能照査を行っているが約40項目のうち1項の中に技能検定の資格の有無の項があり、ほとんど賃金には影響がない。この点、技能レベルアップのためにもっと制度の充実を望む A 2
 - ☆ • 実技試験問題が先に分っているのでは練習すればほとんどの人は（ある程度の技能があれば）合格する。これは学科試験問題が分からず、実技当日実技時間を10分位延して（図面を見る時間又は製作方法等）実施したほうが一級技能士としての価値がでる。現在の方法では、実技のほうがその価値がないように思えます。 B 6
 - ☆ • 学科試験の内容を高度なものにして、社会的に権威あるものにしたらどうですか。 B 5
 - ☆ • 検定合格者に対して、もう少し社会的に優遇すべきだと思う。苦勞して合格しても、今は経済的な優遇はない。 A 3
 - ☆ • 技能検定の制度をもっと社会的に権威あるものにする必要があると思います。どここの会社でもその資格が通用するような内容と実力のある試験制度を確立されることを希望します。最近、検定試験が少なくなってきたように私は思われる。その点からも権威のあるものが望ましいと考えられる。 A 1
 - ☆ • 一級合格を対象に特級制度をもうけていただきたい。現在の検定内容を見ていると、図面を試験日以前に本人に渡し、実技の練習の時間を与えている。これでは本当の検定にはならない。特級制度は図面を当日一時間ぐらい前に本人に渡し実技を行う。これが本当の検定だと思います。 D 3
 - ☆ • 技能試験制度は自分自身の修養の上にも非常に大切なものだと思います。 A 9
 - ☆ • 技能とは物を作り出す極めて重要な存在であるにもかかわらず、現在の日本社会に於ては極めて低い位置に見なされている。スイス、ドイツを始め、ヨーロッパ各国に比べると話に聞く限りでは技能者の社会的な見方には大きなへだたりがあると考えられる。高度の技能者の育成には、この点が大きな問題ではないかと考えられる。従って、技能検定に於てもより高い技能と広い知識によって得ることが出来るような、質の高いもので、社会においてその存在をみとめるような価値あるものであってほしいと考える。 A 3
 - ☆ • 技能検定の適正を期すため、事業所内での実技試験は行わないこと。 C 1
 - 職業訓練指導員免許取得者の学科免除は適当でないと思う。 C 2
 - 試験制度を高度化し、取得者に対する社会的（給与面）を与えることを希望します。 A 2
 - ☆ • 試験内容の学科試験の問題のうち、技術的なもの以外でクイズ的な問題や程度の低い問題が2/3位あった。もっと高度な技術問題を出してほしい。 B 5
 - 実技では、使用する機械の性能で運、不運がつきまとうので解決してほしい。そして超硬 C 1

- の時代なのだから、超硬バイトで試めしてほしい。
- ☆ ・ 技能検定を各社が重要視するようになってほしい。 A 2
 - ☆ ・ 一級技能士の資格を持っていても、まだまだ社会的に認められていない。私が資格を得て A 2
1 2 年になるが、社会的認識がたいして進歩していないし、会社内においても給与面、資
格についても特別の計らいもない。何のため、検定を得なければならないか考えに苦しむ。
 - ・ 私の現場では、ほとんど全員資格取得者（1、2級）ですので、私の資格取得時と大分、 E 4
おもむきが変っています。
 - ☆ ・ 技能の向上と共に人間性の向上、人格の完成を個人生活においても、又職場にあっても常 E 4
に努力すべき点だと思います。
 - ☆ ・ 技能検定の社会的評価を高めるためにマスコミ対策が必要ではないでしょうか。 D 2
 - ・ 若い人達に技能の価値を認識してもらうことが、工業輸出立国であるわが国として必要な D 2
ことと思います。
 - ☆ ・ 社内の勉強会等は、企業が必要を感じた時にしか行けないのが実態でしょう。技能検定は E 3
われわれ現場人にとって勉強するための大切な節となっています。より効果を上げる為に、
貴校で講習会等の企画をしていただけると有難いと思います。
 - ☆ ・ 技能検定制度は、基本的技能レベルの向上には大いに役立ったと考えるが、1級技能検定 D 3
合格後の上級技能検定の制定を特に希いたい。只、上級技能検定内容は1級技能は勿論で
あるが、それ以上に人格、学識、その他を重視する制度とし、終生技能人としての目標を
与える必要がある。現状では、1級技能検定合格までは累命であるが、その後一般的に技
能者としての知識、技能を磨いている意欲がみられない。
 - ☆ ・ 国家検定なら、それなりの価値と評価があってもよいと思います。 A 3
 - ・ 学科で落ちた時、どういう科目が悪かったか、何点ぐらいか通知がほしい。 C 5
 - ☆ ・ 単純技能も必要と思いますが、現在ではライン工が大半をしめているので、多能技能（製 D 4
造ライン）検定をお願いしたい。
 - ・ 技能検定取得者に何らかの方法で優遇を全国的に考えてもらいたい。 A 1
 - ☆ ・ 今後、検定受験は工場で行わず、公的の所でのみ行うこと。 C 1
 - ☆ ・ 機械科の高卒の方々が現場に出ても実際は即戦力にはならないことが多い。若い人々が進 D 1
んで検定を受け、何回落ちても勉強することによって自分自身、身につくことと私は思い
ます。
 - ・ 数多くの人が出来ただけ近い場所で受験できるようにされたらよいと思います。 C 1
 - ☆ ・ 検定をもっと社会的に権威あるものにするために、実技課題の現在の出しかたを考え直し B 6
てほしい。現行の方法では何も知らない素人でも一ヶ月位課題の練習をすれば1級でも楽
に合格する。逆に、経験30年のベテランでも練習なしで受験したら確実に失格する。以
上のことは私達以上に出題する当局の方々がご存知の筈である。技能検定1級よりも勤続
1年の方がずっと役に立つと、検定そのものが馬鹿にされる理由はここにある。
 - ☆ ・ 私の会社では、工場長も技能検定には誠に力を入れていますし、私自身も休日などを利用 A 2、A 3

し後輩の技術指導をしています。できれば今以上に社会的にも、経済的にも特典を得られるようにしてやってほしい。

- ☆ • 内容、方法に関しては現状のままでよい（もっとも初期よりも、あらゆる点で改善されているのがよくわかる）。 B 4
 - 社会的効果は各事業所によりヤチマチ、S 3 7年当時は初期だったためと、事業所内部の経営者の頭の内容、考え方、組合のあるなしによって大変な相違があり、一がいにいえないが、悪いところでは援助はしても、社会的にみとめるといったところまでは到底いかなかった。いまも同じ、掲示板に名前が出るだけです。あとは上司がモクサクする程度。この点大いに不満あり、このような事のないよう。これから受ける人たちのためにも考えてあげて下さい。ある職場の声として「受かったって、どうっていい事はないし、馬鹿みたいな結果になるときもある」。
- ☆ • 試験の程度について B 5
 - 学科 — 技検協会発行の例題集をみて適確な水準と思う。
 - 実技 — 学科の合格率 30～40%・実技 60～70%と聞いている。事前に公開するので練習が出来ることもあるが、難易度が低いと思われる（オリンピックにくらべて）。特に機械工を例にとってみても、フライス、セーブ等に比べ、旋盤はやさしすぎる。機械工の主流が旋盤であるから合格率が高くなるのではなからうか。 B 6
- ☆ • 実技試験を民間の会社で行う場合は公的監督者を試験場に試験が修了するまで立合う必要がある。例えば、会社で実技試験を行う場合、会社で必要と思われる人物（班長、組長）などが試験の実技が合格ラインに入っていなくても合格している場合がある。又、当日に不出来で、翌日に仕事をさせて合格（2級）させるに至っては言語同断で検定実技の榮譽は地に落ちてしまいます。出来れば、実技試験は公的機関で行うべきだと思います。 C 1
 - 次に講習制度で学科試験を免除することは、その本人に対して勉強の努力を失わせる結果になると思いますので、この制度は一考をお願いします。 C 2
- ☆ • 技能検定 1級は私達は経験 15年だったし、取得するのに苦労した。高卒で3年で2級、5年で1級と若い人がサーツと取れる。 C 3
 - 又、1級の資格はとったが仕事の内容をみて、これで1級技能士かといいたくなる人もいる。前にはもっとハクのある技能資格に感じていた。 A 7
- ☆ • 検定にむつきしさが無い（実技—フライス）。受検すれば誰でも合格するような気がする。 B 1
- ☆ • 学科試験の問題と答えを公表してほしい。 C 5
 - 学科の問題に○か×かなんともいえない問題をのせないでほしい。 B 5
 - 学科の問題を受検職種（作業）の問題比率を多くしてほしい。 B 5
 - 資格を取得するのに免除があるのはおかしいので廃止してほしい。取得しても意味がないのではないか。 C 2
 - 2級を合格して1級を受検するのに、学歴などによって受検資格が違うのはなぜか？。 C 3

- ☆ ・ 社会的に技能士はまだまだ低い評価を受けている。 A 3
- ・ 会社等でも特に特典もなく、高い技能にチャレンジしていく努力が成績のみの評価で、資格等のライセンスを生かした手当等も考えてほしい。 A 2
- ☆ ・ 学科について、もう少し巾のせまい内容にしてはと思います。本業の問題が少なすぎると思う。とくに私は、2級の時は型削盤で受検しましたので非常に大変でした。型削盤では機械全体の知識を得ることが少なすぎるので、とくにそう感じた。もう少し、学科も本業に関連のあるものがほしいと思います。 B 5
- ☆ ・ 技能検定における○×式は受検する者においては賛否両論、考慮すべし B 5
- ・ 免許取得における社会一般に対するアピールがたりないように思われる。 A 3
- ・ 合格者の氏名を新聞、専門雑誌、報道関係による発表も一つの方法ではないか(大学合格者のように)。 D 2
- ☆ ・ 私は最近転職し、同種の仕事についていますが、その際、技能士を持っていたことが多少考慮されたとは思いますが、まだまだ免許がなければ出来ない仕事(例えば、車、ボイラー、危険物、etc)ではないので、社会的な位置決めがされていないと思う。最終的には学歴と同等の位置決めがなされるべきと思います。 A 4
- ☆ ・ 現在、2級の通信教育制度はありますが、1級のはありませんので是非設けて欲しいと思います。1級合格後は、増々専門的な知識が必要と痛感致しております。 D 5
- ☆ ・ 資格取得者を優遇できる制度をもうけてほしい。 A 2
- ☆ ・ 内容——学科テストはまずまず、しかし実技課題はいささか問題ありと思う。課題が事前公開のため2~3度練習すれば経験の浅い人でも簡単に合格点ぐらいのもの工作可能。 B 6
- ・ 実技課題も減点法にしたらいかが。自動車の運転免許のように誰でも一寸頑張れば資格がとれるような技能検定制度では、この制度そのものの意味の受け止め方も低くなるのでは? レベルの低い技能士が沢山増えれば技能士1級の価値も下りこそすれ上る事はないのでは? B 6
- ☆ ・ 技能検定に合格しても、会社内においては優遇的なことは全然ない。 A 2
- ・ 社内において検定を行うとき、若干の手心があるようだ。非常に問題である。私達受検者においては不安もある。課長自身の実績を上げるためにも課長が夢中になる。 C 1
- ☆ ・ 職種による実技試験内容に難易度があるように感じるが.....。 B 1
- ☆ ・ 実技試験は前もって加工図がわかるので、練習時間、加工回数が多い人が有利である。又その会社の機械で受験が出来るとなるとなおの事である。個人で受けるとなると仲々むづかしいのではないか。問題は当日までわたさず、受験日の時、練習なし(機械操作のみ1Hくらい)で行うのが本当ではないかと思う。 B 6
- ☆ ・ 技能検定は年々社会的に効果を上げ、私達を始め日常の作業に大きく成果に達成していますが、実技の合格率は高いが、学科の合格率は低いので非常になやみの課題となっています。学科の問題内容を調べては試験問題等を調べては試験問題等を作って知識に挑戦させてはいるが、一般的内容に問題が多くあるようです。 B 5
- ☆ ・ 指導員試験合格者の一級学科試験免除は一考あり、実力で試験を取れるように。 C 2

- ☆ ・ 試験が年一回なので、受験資格があれば何時でも受験できればよいと思う。 C 4
- ・ 技能検定の質(内容)をもっと高めて欲しい。 B 4
- ☆ ・ 現在の技能検定の資格が企業内において具体的に成果(賃金面)として表われて来ていない面を考えると、苦勞して資格をとる意味はないように思う。最近私の職場では検定試験に背を向ける人が多くなっている。資格自体が社会的に有利になることを願っております。 A 2
- ☆ ・ 技能検定の時期ですが、実技の試験日がちょうど真夏になっていますが、もう少しずいし C 4
- ・ 10月とか11月に出来ないものでしょうか。受験する人は大変です。
- ・ 学科試験はあまり自分の職種と関係のない問題は出題しないようにしていただきたい。 B 5
- ☆ ・ 社会的な制度としての困りの見方はゼロに等しい。新聞等にも「工員」という書き方で A 3
- 一向に我々技能者の社会的な地位は向上していない。
- ☆ ・ 最近の技能検定は合格が比較的に簡単になったように思う。技能検定は検定として試験を B 1, C 2
- 行い免除する項があってはならないと思う。年々やさしくなるような制度ではなくて、検定をはじめたころのようにむつかしい試験のほうがよいと思う。誰でも免除を受けられる講習会みたいなものはやめ、実力本位で合否を決める制度にしてもらいたい。乱発すると重みなくなり、単なる紙きれとなってしまう。
- ☆ ・ 技能検定制度があり、せっかく各々の職種の資格を得ても、実際には経済的な面でも社会的 A 2, A 3
- な面でもほとんど評価されず、まったくといってよいほど有名無実化している。このままでは検定制度そのもの自体の存続も危ぶまれてくる。我々、技能労働者にとって検定制度によって資格を得ることは、唯一の残された希望でもあり、又夢でもあるわけです。ところが実際に資格を取ってみても何一つとして評価されず、唯、自分だけの心のよりどころではまったくしょうがないという感じです。社会的効果も唯、世の中のなりゆきにまかせていることなく、強い行政指導をお願いする次第です。
- ・ 試験制度も何年たっても余りかわりばえがなく、もっと実際に促した内容にすべきです。 B 4, E 1
- 試験の参考資料にしても間違いだらけ、行方労働省からして、これだけ真面目に考えているのが疑問に思われる。
- ☆ ・ 現在の技能士の一般的な地位とか賃金、手当というものは資格取得前と変わらず名前だけに A 1
- 終っている。企業においても従業員の士気を高めるための一手段としか見ていないのが現状ではないかと思う。私の希望は資格取得後の地位とか賃金等について法律による裏付けがほしいと思います。
- ・ 又、現在の技能士のレベルでは低いのであれば、さらに上級の試験制度を作ってもよい D 3
- ではないかと思えます。
- ☆ ・ 我々は自分のため、技能向上の意味で技能士の資格を取得して毎日の仕事、および部下の A 2, A 3
- 指導に役立っているが、問題は資格を取得したということ、企業および社会一般でどのように評価してくれるかということである。一般によく聞く声は資格をとっても別になんの価値もないという事で、人間に個々の考え方もあると思うが、このような事のないよう。
- ・ 又、技能検定を社会的にも強力な味方をされるよう、もっとPRをしてほしい。 D 2

- ☆ ・ 課題が何年も同じなため、訓練をより多く出来る者には有利になっていると思う。もっと
手数を短かくしてもよいのではないか。 B 6
- ・ 自分の会社では、その職種に従事していなくても訓練させることによって受験できるよう
になっており、合格後、生かせない場合もある。こういう点で会社自体考えるべきである。 E 4
- ・ 社会的に必ずしも評価を受けているとは思われない。(社外で受験したものについては認
めてくれない) A 2
- ・ 現在の受験職種をもっと多くして、誰でも受験できるような制度にしていくべきだと思う。 D 4
- ☆ ・ 1級合格後、職業訓練指導員に合格し、勤務する同族親会社にて、技能検定委員を5期務
めました。委託検定の場合(実技)、採点基準があっても主観採点がどうしても甘くな
りやすい様に感じる。我々が受験した総合職業訓練所のように公平な採点方法につ
いて検討すべきであると思う。その他、使用機械、工具等についても社内の場合十分くせ等
知る機会に恵まれるため、それ一つをとっても公平でない。出来れば同程度の受検者
等のある他企業にてした方が効果的と思う。 C 1
- ☆ ・ 実技問題は問題を簡素化し、しかし他の機種(例、フライス受験者はボール盤又は旋盤)
を5~15分間使用して部品が出来上るような問題も必要では。(一級の場合) B 6
- ☆ ・ これから検定試験学科は現在年一回ですが、二回位にしてもらえればもっとらくになると
思うが.....。 C 4
- ☆ ・ 技能検定合格者に対し会社でなんの恩典もありません。国で何らかの対策が必要である
と思えます。 A 1
- ☆ ・ 試験制度だけで後のフォローが必要かと思えます。 A 1
- ☆ ・ 現在の社会では、会社内あるいはどこかでもあまりよくみられていないのではない
でしょうか。その例が会社等にしてもそうである。技能士として国検をとってもヨーロッ
パほどの給料がもらえないというのが日本の現在の姿でしょう。もう少し技能士のあり方
として何らかの形を作成されたらなあとは思っています。現在の会社内の若年の人達で
もそうですが、国検をしてもそれほどよくならぬと申す人もいます。国で作成された検定
に何らかのひとつのほたもちのようなものを考えてほしいと思えます。ヨーロッパのある
国では、その点非常に技能士をよくみられていると伺っています。 A 2
- ☆ ・ 技能士の資格をもっている現在の試験(実技)内容では4~5回練習すればだいたい合
格するようである。これでは大きな会社の技能検定や技能競技(オリンピック)に熱心な
ところに有利で町工場に勤務している人には不利。実技課題を公表せず、当日発表する事
にするべきだと思う。工具や刃物、道具は発表しても、課題は発表せずに技能検定を行う
なら、私も1級の資格にホコリがもてるのに ——。 B 6
- ☆ ・ 技能的なものだけでなく技術的なものもとり入れ、実技試験なども当日に問題を出し、試
験するようにすべきだ。 B 5
- ☆ ・ 使用する機械の新旧、場所によって製品の仕上りに大きな差がある。よって実技優秀技能
者の決定方法に不満です。学科試験の優秀技能者の方がより妥当である。 C 1

- ☆ • 機械加工の試験(実技、学科)は選択制度をなくし、機械技能士はすべて同じ問題に取り組むべきです。但し、その年により実技の機種はかえたほうがよい。 B 4
- 実技の問題は公表しない方がよい。 B 6
- 技能士の社会的地位向上を目指すため、今後、益々出題は広範囲、専門的にして実力がなければ合格しないようにして欲しい。 B 1
- ☆ • いまだ社会的に何ら特典がないと思う。技術、技能を国家がみとめたならば社会的、会社等で+αがあってもよいと思う。資格があっても理髪、栄養士等と社会からみとめられた資格と異なると思う。技能検定は今の社会に、いまだ受け入れられていないと思うし、我々の大会社(自分としてはそう思う)で皆な資格をとると同一になって、レベルアップはあるが給料には何ら十にならず、資格だおれになってしまう。名目的な資格なら高い受験料を払ってまでいらないと思う。 A 2、A 3
- ☆ • 技能検定1級に合格していても、私は会社から何も特典を受けていないように思います。社会全般にそういう傾向ではないでしょうか。 A 2
- 受検にあたり会社、上長、職場等の協力がなければ難しい問題だと思います。 E 4
- 検定内容では学科の範囲を多少狭めて関連項目を多く掘り下げたものにしてほしいと思います。 B 5
- ☆ • 資格そのものは何もいかされていない現状では、資格を得ることは自己満足にすぎないと思う。 A 3
- ☆ • 旋盤、フライス盤コース実技課題は変更により応用範囲が多くなってきて大いに役立ってきている。ボール盤、平面研削盤等はまだ少し高度な技能をとり入れるか、標準時間の短縮を計った方がよい。再検討が願います。 B 1
- ☆ • 全コース標準時間で打ち切った方がよいと思う。 B 6
- 採点方は出来るだけ外観得点を少なくした方がよいと思う。 B 6
- ☆ • 機械工1級の資格は自分の実力を試みるにはよいが、他に何ものを得ようとするのはいまだ社会が、そこまでいってませぬ。もっと資格に対して権威が欲しい。 A 3
- ☆ • 中小企業ではよいと思うが、大企業(当社)では、他の職種についてしまうと職種給が下がってしまうのであまりよいと思えない。 A 1
- 現状にあってない所があると思う。(旋盤などは小型旋盤を使用している人が、大型旋盤で受けるとなると実際上、大変ではないかと思う。 D 7
- ☆ • 学科試験問題の中に、文章によって○とも×ともとれる問題が多い。このような問題ではなく、全部○×ではなく、半分位は書かせる問題もよいと思います。 B 5
- ☆ • 技能検定の社会的低下からみられる(一般うけしない)ので、向上を計ってもらいたい。 A 3
- 検定も1級で終わりで、もっと高等な(単一技能でなく、複合的、知識的なもの)検定を作ってもらいたい。 D 3
- ☆ • 現行の問題形式は単に暗記するのみの勉強であるように思われます。実のある知識については、やはり書き込み方式の試験の方が大いにプラスになると思う。 B 5

- 機械工、仕上工とか、とにかく経験で一種目しか受験できないようですが、能力、実力があればどのような職種もとれるような事であってもよいのではないかと思います。機械とか、仕上げとかの資格をとり、全体での仕事の巾が増した方がよいのではないかと。一人何職種の技能があってもよいと思います。 D 4
- ☆ • 私は以前町工場で働いていたことがあります。そのことから考えて、現在の技能検定試験、特に実技試験において小企業に働く者は不利と考えます。 C 1
- ☆ • 実技の課題が発表されるように、学科についても出題のまをしぼれるような事を願いたい。(例、旋盤に関するもの20題、研削盤、フライス盤10題、材料、設計製図、焼入20題) B 5
- ☆ • 学歴万能の日本ですから、十年もたてば大学卒の技能士が生まれ、社会的な評価も得られるでしょう。これは逆説ですが。 A 3
- 社会的な効果は企業内組合である日本ではどうですか。技能士としての要求などできませんから、良きにつけ悪きにつけ、外国等のような機械工労組なんてものかよいんじゃないですか。 E 4
- まあ、そういっても現実には出来っこないですよ、おれは1級技能士だとガンバッテも会社は何もしてくれません。私としては学科試験の時に勉強した事柄が財産として残ったと自分にいいかせています。 A 9
- 技能士だからって給料上げるだの、職長にしろだの、もの欲しそうな顔などしないでプライドをもちましよう。マー、プライドじゃ食っていけないけれど、それが技能工というものでしょう。職人なんですな。 A 9
- ☆ • 本人の勉強には大いに役立つが、事業所、社会的にみると制度に対しての認識、それに伴う保証はまるで低い。英検等にくらべると金銭的にも認められない。自然と制度そのものの厳しさ、価値が低くみるようになる(受検者側)。悲しいことと思う。その意味でアップール、バックアップを心より願いたい。私たちは生甲斐、働き甲斐をより感じるであらう。 A 2
- ☆ • 私の事業所は技能検定の委託を受けて事業所内で試験をしています。私も1級合格後検査員になっていますが、こんなデタラメな試験はないでしょう(学科は別)。一例をとりフライス盤2級問題でBの寸法をa、b、cの3ヶ所で測定しますが、Aの切削のためBのα点がふくらみ、Aの寸法が出ません。そこでb、cの寸法を測定し、Aの寸法は内側マイクロで測定せず、外側マイクロでC、Dを測定し、b、cの良い寸法からCDを引き算してAを出します。これはあきらかに違反であります。国家検定という権威ある検定がこんなことでよいでしょうか。 C 1
- ☆ • 技能検定合格者をもっと社会的に認めてもらい、経済的にももっとゆうぐうされるようにしてもらいたい。 A 2、A 3
- ☆ • 検定受検者にもっと国で援助してほしいと思います。また会社にも合格者には優遇するように指導してもらいたいと思います。 A 2、E 4

- ☆ ・ 今、試験の問題が○×式で簡単になりすぎていると思う。検定と名がつくものなら、レポート形式にするのも一つの方法だと考える。 B 5
- ☆ ・ 国家的(労働省)政策として実施されてるにもかかわらず、有資格となっても優遇性に乏しく、大企業においては個々の賃金系体又は昇進制度等を打破することがあらず(企業によっては必ずしも上記の通りではないでしょうが)いたずらに各人の技倆だめし程度に終わっており、今後とも技術革新が行われていくであろう工業技術をより一層助長すべく方向に行政指導によって推進すべきと思います。すくなくとも現在より社会的効果のある自動車免許又は無線通信士のような実のある資格が望ましく、国家百年の将来を見極めた時、絶体にその確立が必要である。 A 1
- ☆ ・ 技能検定(2級)が通信教育でとれることが不満である。経験又は訓練によって技術を磨きとるものと思う。 D 5
- ☆ ・ 技能検定内容、方法等につきましては今迄どおりでよいと思うが、合格後は何の優遇等がないのが現状である。社会的に何らかの優遇があれば働く者にとっては士気を高めることにつながると思う。 A 3
- ☆ ・ 今日日本は少なからず技能に対する偏見もあることは事実である。「職工」という言葉から出るニュアンスは非常に悪い。これは現在までの日本の歩んできた道が官僚的であり、常に「管理する者」と「管理される者」との関係で成立し、「管理される者」の「人間性を尊重すること」は「管理する者」の立場を崩壊させる可能性があると感じていたからと思う。このような「社会」は少しずつ「各自」の「意識」の中から取り去ってゆかねばならないと思う。又そのためにも「国家」としての対策も必要と思う。その点でも技能検定制度というものは、その時代に合った方法でドンドンやるべきで現在の実技テスト等は「時代遅れ」の感がある。もっと各企業の実態を調査し、それに合った内容に変化してゆくべきものと思う。いづれにしても現在の日本の学歴偏重社会の中で「技能」は今まさに「過渡期」にあると思う。これに対する国家の対策も必要である。 A 1
- ・ 又、技能の中に生きる人間は「たてまえと本音」のまさに矛盾の中に生きているといえる社会にアピールできる方法で、もっとPRして地道にすすんでいくことを期待したい。 A 3
- ・ 労働省と文部省との間の密接なつながりを何かにつけてやってほしい。これは訓練校と専修学校制度の問題について感じたこと。 E 2
- ☆ ・ 1級の上のランクがあってもよい。 D 3
- ☆ ・ 経済的特典を与える必要性があると思う。 A 2
- ☆ ・ 技能検定の学科試験問題について、問題の主旨がよくわからないものが100問中1割程度ある。(難しいというのではなく、理解に苦しむということ。専門的に考えると、どちらとも○×判定の下しようのない問題があるように思う)。 B 5
- ・ 問題の主旨が判らない時に問い合わせが出来、説明してもらえる窓口があればよいと思う。 C 5
- ・ 参考書(問題集も含む)類の記述の誤りもかなりあり、受験者にとまどいを起させている。 E 1
- ☆ ・ 学科の試験の点数を知らせてもらいたい。できれば正解も知りたい。 C 5

- ☆ ・ 技能検定の学科試験の内容が非常に広く思えてならない。 B 5
 - ・ 合格点の発表はしてもらえないのですか。 C 5
- ☆ ・ 事業所で試験をやると何かと不正がうわさされるので、一括して試験場でやって欲しい。 C 1
 - ・ 資格を取得しても社会的影響力が何も無いようだ。 A 2
- ☆ ・ 実技試験の内容が時代に遅れるようで、特に使用工具類にその感が強い。 B 6
 - ・ 多様な職種のため全職種共1級、2級等横の線(内容レベル)に段差があるように思います。特に新しい検定職種に多いと思います。 B 1
 - ・ 学科試験は、其の職種が60%、一般的知識が40%が理想と思います。 B 5
- ☆ ・ 他の資格とちがって検定に合格してもしなくても仕事になり、私も一時、気にしていません。 D 1
 - ・ 学科の文章で意味のわかりにくい点が多くあるといわれております。 B 5
 - ・ 又、減点式はなんとかならないものかと思えます。 B 5
- ☆ ・ 技能検定の資格をもっている大きな会社では合理化、省力化の波の中では資格を十分に生かせない。 A 2
 - ・ 資格の管理が出来ているのか疑問であり、作業の内容によって資格の有無を別として人員配置が行われる。 A 2
 - ・ 技能検定合格者は会社等で能力を保護するよう法制化しなければ、資格者の能力は企業の都合のよい方に(別職種)に配置換えされ、能力を発揮出来ず、本人はもとより国の損失になる。 A 1
- ☆ ・ 学科試験をもっと難しくすべきだ。 B 5
 - ・ 1級よりもっと上の検定を設けるべきだ。(早い人だと24才で1級に合格できるので)。 D 3
 - ・ 訓練校(公立)等で年何回かは新しい情報を伝える講習日を設けてほしい。 E 3
- ☆ ・ 1級よりもっと上の級を作り励みにしたいので検討されたし。 D 3
- ☆ ・ 技能検定の実技は少し練習をすれば合格できるものだと思う。むしろ、技術者さんは学科のほうが弱いと思われるので、一級の学科が免除できるような制度はなくしたほうがよいと思われる。また、検定の問題をよりむつかしくして国家検定の価値を高めるべきだと思う。 C 2
 - ・ 経験年数がなくとも、それだけの技術のある者ならば誰れもが合格できるように経験年数制度は考えてもらいたい。 C 3
- ☆ ・ 職業訓練指導員免許者は学科免除されて一級合格になる者が増している。職場の組長、指導員級に多い。実際には一級技能士合格後、指導員免許資格を与えるべきであると思う。 C 2
 - ・ 大会社では合格率が良いが、最近、受験者の不勉強が目立つ。合格しても実力のない者が多いようである。 A 7
 - ・ 検定受験勉強は若い人に特にすすめたい。技能と知識を得ることは、合格以上に大切と思う。又、自己研修のためにも目標として実行させたい。 D 1
 - ・ 検定についての社会的認識が低いようである。 D 2

- 技能五輪競技は大会社のみで、本当の実力のほどがわからない。企業間の競争のように思える。 E 4
- ☆ • 問題をもっと素直な表現で出してもらいたい。言葉のあやで各人によって理解がさまざまである。 B 5
- 職種にあった問題を多くし、他のものは一般常識的な出題にしてもらいたい。 B 5
- ☆ • 会社(社内)訓練校を卒業して同一職種に10年以上の経験者に職業指導員の資格が与えられる(この場合、一級の資格のないものでも)不合理がある。一級取得者はかんたんではあるが再試験がある。 C 2
- ☆ • 実技試験の合格点を上げて欲しい(10点程度) B 3
- ☆ • 受けとりかたによって、良とも可ともとれる内容の問題(筆記)があるが、はっきりした問題を出していったほうがよいと思う。 B 5
- ☆ • 現在、技能検定は一級と二級の二種で、普通30才前後で一級に合格するとその後は目標がないので、上級の技能検定を行うようにしてほしい。 D 3
- ☆ • 技能検定時の技能試験時に使用する機械精度がいろいろあり。技能もさることながら、機械精度の良否に左右されることがあり、受験者にとっては不満が残されるような感じがする。 C 1
- ☆ • 受験料が高すぎるので、国や地方自治、事業所等で補助をしてほしい。 D 6
- 現在の世の中は学歴最優先で技能者に対する評価が小さいので、国家的に技能者を優遇する制度を作って欲しい(西ドイツのような形態)。 A 1
- 現在の実技は事前に問題が発表され、練習出来る体制があれば誰でも合格出来るので本当の実力がわからないと思う。問題は当日に発表し、誰もが本番で試験に臨めるようにしてはどうですか。 B 6
- 学歴によって受験資格が異なるのは理解に苦しむ。中卒であろうと、大卒であろうと経験年数は同一にすべきと思う。 C 3
- ☆ • 実技試験で大企業と我々中小企業の人では環境で不平等な場合があるように思われる。例えばNC機の技能検定に申し込んだところ、設備がないので今年は出来ないこととわられたことあり。自分で設備を交渉しろだと……。我々は自分ですべて手続きをしなければなりませんので非常にこまる。 D 7
- ☆ • 学科の減点法は感心しない。他によい方法を考えてほしい。 B 5
- ☆ • 学科、実技とももっとレベルを上げたほうがよいと思う。 B 1
- 1級、2級とも差が感じられないが、もう少し1級のレベルアップをと思う。 B 1
- 等級の新設を考えては。 D 3
- ☆ • 技能2級の場合については、実技の場合、前もって課題を発表し練習をして受検ということ。 B 6
- 1級の場合は2級と同じ方法をとらず当日課題を発表し、30分~1時間程度の段取り、検討の時間の余裕を与え、競技に取りくむようにしたやり方。 B 6

- 私の会社では毎年、技能競技大会を開催しているが、課題を当日発表したり、又課題を前もって発表しても練習というものは一さい行わず。ぶっつけ本番というやり方をとっている。今回、私が1級受検したのも練習というものはしなかった。この方法がよいのか否かは別として、従来の方法から脱皮した技能検定のしかたについて検討していただきたい。

B 6
- ☆ 試験の(特に学科)結果内容を個人あてでも知らせてほしい。どれだけ出来たのか、どれがまちがっているのか等全然わからない。

C 5
- 受検料が年々高くなっている。今年は機械加工、NCの場合、実技8500円、学科1500円。余り高いと、そのみかえりのない会社では受けることをさけるであろう。

D 6
- 社会的に一級建築士、一級整備士のような受け方がされていないようだ。

A 3
- ☆ 技能士にとって検定制度は自分の担当職種のみでなく、他の職種の知識を高めることが出来るし、自分の知識や技能を確認することの出来るよい機会である。

D 1
- 職業訓練校の学科、免除は不満である。

C 2
- ☆ 私は技能検定1級取得後、職業訓練指導員の資格をとりました。それは会社での自分の置かれている立場上、必要であると判断し取得した訳です。後輩に仕事を教えるにあたり、自分自身の技能を合理的に伝えたい為であります。しかしまだまだ知識がたりないと感じております。検定1級にとどまらず、まだ上級をもうけるか、あるいは勉強(講習会)等ももうけ、さらに技能向上をはかる機会を与えて下さい。

D 3
- ☆ 近年は、技能検定職種も多くなってたいへん良いが、学歴優先の社会であって技能労働者の社会的評価は低くみられている。技能優先の社会にもっと力を入れていくべきであると思う。

A 4
- ☆ 1級の上にもう一ランク設けて欲しい。その試験内容は昔の検定のように、目測やアラサ判定などの試験項目を取り入れて、本物の技能士を認める制度が欲しい。

D 3
- 現在の学科試験内容については解釈の仕方で明確な答を出しにくいものがあると思う。

B 5
- 技能検定協会等が出している問題集には、多くのミスプリント、又「これはおかしい」と思うものがある。参考書によって知識を吸収している我々にとっては大きな問題です。

E 1
- ☆ 試験をやっても答がはっきりしないような所もあるために、自信がもてないような所があるので、答を公表してほしいと思う。又、自分は何点とれているかを通信等でわかるようにしてもらいたい。

C 5
- ☆ 技能検定も会社においては年々上司からすすめるようになり、さかんになってまいりましたが、現場で作業するには車の免許証のようになくてはならないものではないため、勉強する人としなない人がでてくる(受検)。うからない人でも本でも読めば知識が身につくのにしない。そのためには合格者には社会的地位を与え、その他の人にも受検を義務づけるようにして下さい。全員受検させ、全体のレベルアップを計るべきである。最後に、車の免許証のように……………。

A 3
- ☆ 学歴のない私は一級さえとればと努力したが、やはり大会社ではだめです。一級の技能検

A 4

定資格よりも高卒（新制）の学歴の方がほしいです。中卒での永い間の低賃金としかえすことができません。

- 一級資格者には全国共通するもので、賃金その他で有利になるよう、企業を指導して下さるようお願いいたします。 A 1
- ☆ • 技能検定合格のみで本当の技能を表わされるとは思わない。仕事をすすめる上で大切なことは仕事に取り組む姿勢、考え方である。いかに高いうでをもっていてもや気がない、又調子もんでは仕事に生かせない。又、仕事に対する調整能力とじゆうんな頭をもって改善、工夫をしていかねばならない。こうしたものが判定できる制度をとり入れることが必要。 B 4
- 社会や会社に対して、技能について積極的にPRして重要性を認識させることが大切である。資格所有者を優ぐりする処置を決めて、実施させることも必要。（試験制度の改善を含めて考える） A 3
- ☆ • 学歴社会では常に技能系で働く者は低賃金で格差がある。技能検定有資格者には国家的に1級＝大卒位の値を経済的に認めてほしい。 A 1
- ☆ • 現在、各事業所で検定が行われていると思いますが、同じ機種、同じ設備がととのっている訓練所、あるいはそのような場所で行うほうがよいと思う。私の会社などは機種によっては精度が全然違う場合があるので、又、なれている機種と初めて使用する機種とでは大分作業のスピードも違うと思う。 C 1
- ☆ • 先進国で日本ほど技能者の地位の低い国はないと思う。技能者がたいじにされない今の現状を打開するため、労働省の今後の活動に期待します。 E 2
- ☆ • 機械工員はただ仕事についているだけという感じがする。なぜならば、建築の職業は工務店の正面等に1級建築士という広告をかかげ、社会的に非常に価値あるものとなっている。それにくらべ、機械1級技能士といってもなんとも思われていないような気がしてならない。社会的にもっと技能士ということについて、建築士のように1級技能士（機械技能士）でなければならないものがあったらよいと思います。特に、税理士などは学歴は違っても別格であるのは、くやしいというか、うらやましいというか……。その資格で営業できるのはいつの日か？。 A 3
- ☆ • 3級技能検定なども新たに行ってよいのではないか。（例えば、実務経験3年以上のものとか、技能レベルの向上のため。） D 3
- 技能者を社会的にもっと認めさせるよう努力してほしい（再就職するような場合とか）。 A 3

職業資格取得者の意識調査

——技能検定（時計修理・1級
機械加工・1級）合格者について——

この調査は、技能検定（時計修理・1級
機械加工・1級）に合格された皆さんの、仕事に対して
日頃お考えになっているご意見をお聞かせいただくものです。そして、その結果を
参考にして、これからの職業資格と、それを取得して仕事に役立てていこうとする
人々との、好ましいありかたを考えるための資料にするものです。

調査の結果は、統計的に処理しますので、お名前を記入していただく必要はあり
ません。日ごろ、お考えになっていることをありのままお答え下さい。

質問は全部で26問ありますが、Q1からQ26まで全部にお答え下さるようお
願いします。

質問の大部分は、該当する項目に○印をつけていただくようになっています。

全部にお答えいただきましたら、おわたししてある封筒を用いて5月22日まで
にご返送して下さい。切手をはる必要はありません。そのままポ
ストに入れて下さい。

職業訓練大学校 調査研究部

それでは、まずはじめにあなたが技能検定 2 級に合格された当時のことについて具体的におたずねします。質問の大部分は、該当する項目に○印をつけていただくようになっています。

Q 1 あなたが、技能検定 2 級を受検したのは、どのような理由によるものですか。下の項目から該当するものを三つ選び○をつけて下さい。

- 1 勤め先きの会社で受検をすすめられたから
- 2 職場の多くの人が合格していたから
- 3 合格すると、なんとなく安心感が得られるから
- 4 合格すると、昇給や手当等経済的な特典があるから
- 5 合格すると、昇進等に有利になるから
- 6 合格すると、離転職などの場合でも有利になるから
- 7 合格すると、独立自営がしやすくなるから
- 8 合格すると、職場の中で“ハク”がつくから
- 9 自分自身の勉強にもなり、実力をたしかめることができるから
- 10 技能検定 1 級を受検するための一つ的手段として
- 11 “職業訓練指導員”の免許を取得するための一つ的手段として
- 12 合格していないと、自分の希望する仕事につくことができないから
- 13 とくに具体的な理由はなく、ただなんとなく
- 14 その他()

それでは、つぎに技能検定 1 級に合格された当時のことについて具体的におたずねします。

Q 2 あなたが、技能検定 1 級を受検したのは、どのような理由によるものですか。下の項目から該当するものを三つ選び○印をつけて下さい。

- 1 勤め先きの会社で受検をすすめられたから
- 2 職場の多くの人が合格していたから
- 3 合格すると、なんとなく安心感が得られるから
- 4 合格すると、昇給や手当等経済的な特典があるから
- 5 合格すると、昇進等に有利になるから
- 6 合格すると、離転職などの場合でも有利になるから
- 7 合格すると、独立自営がしやすくなるから
- 8 合格すると、職場の中で“ハク”がつくから
- 9 自分自身の勉強にもなり、実力をたしかめることができるから
- 10 合格していないと、自分の希望する仕事につくことができないから
- 11 技能検定 2 級に合格していたから
- 12 とくに具体的な理由はなく、ただなんとなく
- 13 その他()

Q 3 あなたの会社(あるいは、お店)では、従業員に対して技能検定を受検することをすすめていますか。下の項目から該当するものを一つだけ選んで○印をつけて下さい。

- 1 受検するように積極的にすすめている
- 2 できるだけ受検するようにすすめている
- 3 とくに受検するようにすすめていない
- 4 受検することを、会社は望ましくないといっている
- 5 わからない

Q 3で、1、2に○印をつけた人のみお答え下さい。

Q 4 あなたの会社(お店)が従業員に対して、技能検定を受検するようにすすめているもっとも強い理由はなんだと思いますか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 従業員の士気を高めるためだと思ふ
- 2 賃金体系が資格取得者を優遇するようになっているためだと思ふ
- 3 技能レベルの平均化をはかり、製品のバラツキをなくすためだと思ふ
- 4 会社の評価、イメージを高めるためだと思ふ
- 5 採用、配置、昇進等の人事、労務管理上の判定資料にするためだと思ふ
- 6 会社が仕事をすすめていく上で、合格している者を必要としているためだと思ふ
- 7 一人ひとりの従業員の技能レベルを向上させようとしているためだと思ふ
- 8 労働組合からの要求に対処するためだと思ふ
- 9 その他()
- 10 わからない

Q 5からQ 9は、現在、他人に雇用されている人(被雇用者)のみ、お答え下さい

Q 5 あなたの会社(お店)では、従業員が技能検定を受検する場合、何らかの援助をしていますか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 援助がある
- 2 援助はない

Q 5で1に○印をつけた人のみお答え下さい。


Q 6 あなたの会社(お店)でしてくれる援助とはどのような内容のものですか。該当するものはいくつでも○印をつけて下さい。なお下の項目の3から6に○印をつけた人は、()内の“合格の場合でも”、“不合格の場合でも”のいずれかにも○印をつけて下さい。

- 1 会社(お店)で受検のための特別の訓練、勉強会をしてくれる
- 2 会社(お店)外の訓練施設、勉強会に出させてくれる
- 3 受検日が平日でも出勤あつかにしてくれる(合格の場合でも、不合格の場合でも)
- 4 受検日が休日でも出勤あつかにしてくれる(合格の場合でも、不合格の場合でも)
- 5 受検のための交通費、宿泊費の全部あるいは一部を援助してくれる
(合格の場合でも、不合格の場合でも)
- 6 受検料の全部あるいは一部を援助してくれる(合格の場合でも、不合格の場合でも)
- 7 その他()
- 8 わからない

Q7 あなたは、技能検定を受検するにあたって会社(お店)が受検料等を援助することについてどう思いますか、一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 援助をしてほしいと思う
- 2 援助をしてくれなくてもよいと思う
- 3 わからない

Q8 あなたは、技能検定1級の受検にさいし、自分の技能や知識を高めるための特別の訓練や勉強会等について会社(お店)からの援助の必要性を感じましたか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 非常に感じた
 - 2 少し感じた
 - 3 あまり感じなかった
 - 4 まったく感じなかった
 - 5 わからない
- 

Q8で1,2に○印つけた人のみお答え下さい。

Q9 あなたが必要を感じる特別の訓練や勉強会は、どのようなやりかたがもっとも効果的だと思いますか。その方法が可能であるか否かは別にして、一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 個人、グループ等で行なり任意の訓練、勉強会に対する教材(費)等の援助
- 2 会社(お店)の行なり特別の訓練や勉強会への参加
- 3 会社(お店)の各種講習会や研修会への参加
- 4 公共職業訓練校や技能センターへの入校
- 5 その他()
- 6 わからない

Q10 あなたは、技能検定1級に合格していることを、あなた自身にとって、どのように役立たせることが出来ればよいとお考えですか。下の項目から該当するものを三つ選び○印をつけて下さい。

- 1 班長や職長、あるいは、もっと上の管理的な地位につきやすくなること
- 2 昇給や手当等経済的な特典があること
- 3 職場内の配置転換の時、自分の希望する仕事をするのに有利になること
- 4 離転職の場合などの時、再就職に有利になること
- 5 独立自営するのに有利になること
- 6 社会一般が、学歴をもっているのと同じ価値として評価してくれること
- 7 自分自身に仕事のはりあいがもてるようになること
- 8 自分自身の仕事に関する知識や技能の程度が確認できること
- 9 職場の人たちから自分の実力を認めてもらうこと
- 10 社会一般の人々から、自分の仕事の内容や実力を認めてもらうこと
- 11 その他()

質問はちよっとかわりますが、つぎのQ11からQ21までは、あなたの仕事に対する現在の考えかたを具体的にお聞きするものです。例にならって、各問の右側にある5から1までのいずれかの一つだけ○印をつけて下さい。

	5	4	3	2	1
	うま	のま	なん	いあ	全然
	りっ	とあ	んと	まり	そう
	た	う(もい	り	思
	思	り大	もい	そう	わ
	く	り体	え	思	わ
	そ	と思	え	わ	な
	の	うそ	い	な	い
	と	うそ			

例 あなたが、現在、勤めている職場は、あなたにとって働き甲斐のある職場だと思いませんか。

5 4 3 2 1
|-----|
 ①

Q11 あなたは、技能検定のほかに、もし、あなたの仕事に関係があると思われる資格があれば、それも取得したいと思いますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q12 あなたは、いろいろなことを考えあわせると、できれば上級の学校に進学しておいたほうがよかったと思いませんか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q13 あなたは、技能検定は、その免許職種に関する技能・知識だけにとどまらず、他の職種の技能・知識を高めるためにも役立ったと思いませんか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q14 あなたは、技能検定に合格していることが、あなたの現在の人生にとってプラスになっていると思いませんか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q15 あなたは、技能検定に合格していることが、あなたのこれから
(将来)の人生にとってプラスになると感じますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q16 あなたは、技能検定に合格していることを、仕事上の仲間に対
して誇りに感じていますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q17 あなたは、技能検定に合格していることを、職場以外の社会一
般の人々に対して誇りに感じていますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q18からQ21は、現在、他人に雇用されている人(被雇用者)のみ、
お答え下さい。

5 4 3 2 1
|-----|

Q18 あなたは、技能検定に合格していると、就職しても新しい職場
への就職が容易になると感じますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q19 あなたは、技能検定に合格したことによって、班長や職長、あ
るいは、もっと上の管理的な立場になりやすくなったと感じます
か。

5 4 3 2 1
|-----|

Q20 あなたは、技能検定に合格していることに対して、それにみあ
う賃金や手当を要求したほうがよいと感じますか。

5 4 3 2 1
|-----|

Q21 あなたは、現在の賃金体系の主流をなしている年功序列的賃金
の体系(勤続年数、年齢を基準にした決めかた)は、よいことだ
と感じますか。

5 4 3 2 1
|-----|

それでは、つぎにあなたの勤務に関する基本的なことについておたずねします。質問はどれも該
当する項目に○印をつけていただくだけです。

Q22 あなたの年齢はいくつですか。(51年3月31日現在)。一つだけ○印をつけて下さい。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 18才以下 | 5 36才~40才 |
| 2 19才~22才 | 6 41才~45才 |
| 3 23才~27才 | 7 46才以上 |
| 4 28才~35才 | |

Q23 働く者としてのあなたの立場はどれですか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 自営(家事従事者を含む)
- 2 被雇用者

Q24 あなたが、現在、主として従事している仕事はどれですか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 事務系
- 2 技能系(技能工・生産工程従事者)
- 3 技術系(製計・製図等従事者)
- 4 研究開発系
- 5 営業系
- 6 教育訓練系
- 7 その他()

Q25 あなたが、いま勤務している、あるいは自営している会社(お店)の従業員数(全社的人数)はどれくらいですか。一つだけ○印をつけて下さい。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 4人以下 | 5 500人～999人 |
| 2 5人～29人 | 6 1000人～4999人 |
| 3 30人～99人 | 7 5000人以上 |
| 4 100人～499人 | 8 官公庁 |

Q26 あなたは、いまの会社(お店)に勤める前に、他の会社に勤めたり、自営したことがありますか。一つだけ○印をつけて下さい。

- 1 な い
- 2 1回ある
- 3 2回ある
- 4 3回ある
- 5 4回ある
- 6 その他(回ある)

- ◎ 技能検定の内容、方法、社会的な効果等、あるいは試験制度等についての意見や不満、または、今後に対する希望がありましたら、なんでもお聞かせ下さい。

